

とやま まちづくり市民討議会 2011

事業報告書

主催 富山市 (社)富山青年会議所

作成／ 富山市

社団法人 富山青年会議所 ソーシャルデザイン創造委員会

2011年9月

目 次

I	事業概要	
1	本報告書の位置づけ	2
2	「とやま まちづくり市民討議会 2011」開催に至る経緯	2
3	「とやま まちづくり市民討議会 2011」開催概要	2～5
II	討議結果	
テーマ 1：中心市街地に賑わいを創出するにはどうしたらいいいでしょうか？		
6月 25日（土）開催		
各グループのまとめ	6～10	
投票結果	11	
6月 26日（日）開催		
各グループのまとめ	12～16	
投票結果	17	
テーマ 2：市民の防災意識を高めるためにはどうしたらいいいでしょうか？		
6月 25日（土）開催		
各グループのまとめ	18～22	
投票結果	23	
6月 26日（日）開催		
各グループのまとめ	24～26	
投票結果	27	
III	アンケート結果	28～38
<参考資料>		
①	開催風景	39～40
②	市民討議会開催案内書	41
③	情報提供資料	42～72

I 事業概要

【1】本報告書の位置づけ

本報告書は、(社)富山青年会議所（以下「富山JC」）と富山市が共催で実施した「とやままちづくり市民討議会2011」における参加者の討議結果を報告書としてまとめ、富山市に対して施策への反映を求めて提出するものである。

【2】「とやままちづくり市民討議会2011」開催に至る経緯

現在、国では地方分権を進めているが、地方自治をめぐる動きに対して、基礎自治体である市町村は限られた財源の中で、多くの課題に取り組まねばならず、厳しい行政運営を迫られている。このような状況である今こそ、地方自治体は行政サービスの受けてである住民と協働してまちづくりを推進し、地域に適した自治の手法を構築することが最重要課題となっている。

そのような状況の中、富山JCは昨年度に引き続き、富山市と共に、住民の声を行政の施策に反映するための新しい手法として、2回目の市民討議会の開催に至った。

【3】「とやままちづくり市民討議会2011」開催概要

1) 開催日時

2011年6月25日（土）11:00～15:00

2011年6月26日（日）11:00～15:00

2) 開催場所

富山市民プラザ 2Fアトリウム

3) 参加者選出方法

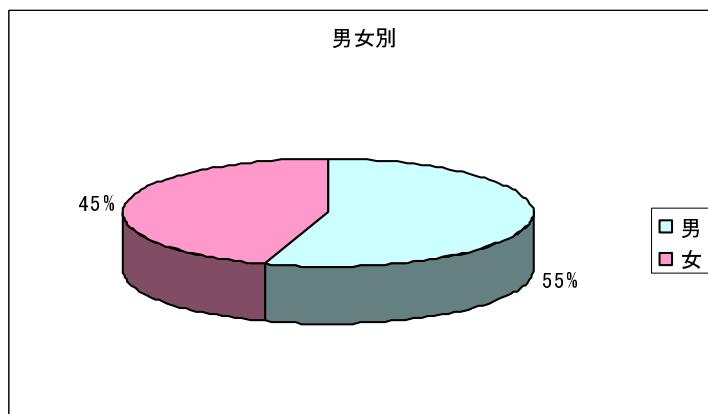
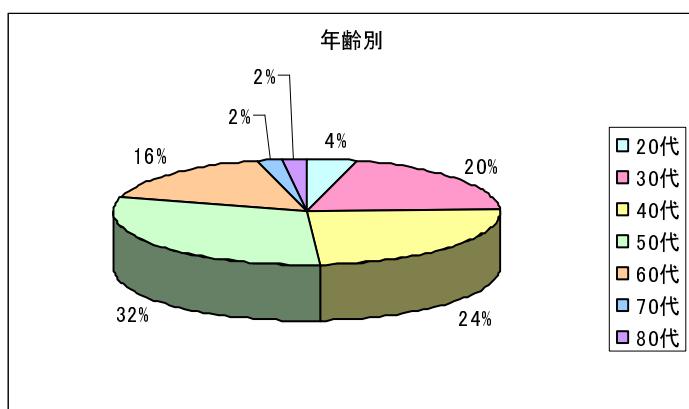
住民基本台帳から無作為で抽出した18歳以上の市民1,000名に参加依頼を送付し、参加希望者の中から抽選で、25名×2日間 計50名を参加者とした。（後日、欠席者が4名発生し、繰上げで3名をさらに追加。）なお、当日の参加者は25日が24人、26日が25名であった。

また、昨年参加者3名（1名は午前中のみ）が討議の補助役として参加した。

案内発送数	1,000
返信数	368
参加可能数	54
参加数	49
見学数	1
不参加数	314

参加

年齢		男	女
20 代	2	1	1
30 代	10	6	4
40 代	12	8	4
50 代	15	8	7
60 代	8	3	5
70 代	1	1	0
80 代	1	0	1
計	49	27	22



① 不参加

理由分類	欠席理由	人数
	興味あり	86
興味なし		47
その他		63
計		196
無記入		118

区分	理由	人数
興味あり	仕事のため	4
	旅行のため	2
	予定があるため	1
	家事・育児・介護のため	3
	病気・体調不良・入院・入所・通院・障害のため	3
	高齢のため	1
	県外在住のため	0
	その他	1
	無記入	71
計		86
興味なし	仕事のため	0
	旅行のため	0
	予定があるため	0
	家事・育児・介護のため	0
	病気・体調不良・入院・入所・通院・障害のため	1
	高齢のため	0
	県外在住のため	0
	その他	0
	無記入	46
計		47
その他	仕事のため	15
	旅行のため	2
	予定があるため	0
	家事・育児・介護のため	2
	病気・体調不良・入院・入所・通院・障害のため	29
	高齢のため	6
	県外在住のため	4
	その他	4
	無記入	1
計		63

4) 討議テーマ

- ① 中心市街地に賑わいを創出するにはどうしたらいいでしょうか。
- ② 市民の防災意識を高めるにはどうしたらいいでしょうか。

5) 討議進行方法

- 1 グループ分け 5人を1グループとした5グループに分ける
- 2 情報提供 行政の専門家から情報提供をする
- 3 自己紹介 一人ひとり自己紹介する
- 4 係決め 議長、書記、発表係を決める
- 5 討議 テーマについて討議する
各人それぞれ自分の思う意見を付箋に書いて討議ボードに貼る
- 6 まとめ 話し合いをしながら、付箋の中で似たような意見を3つのグループに分け、討議ボードにまとめる。(残したい意見があれば残す)
- 7 発表 討議ボードを使い、グループごとに発表する
- 8 投票 一人5票の持ち票で、共感する意見にシールを使用して投票する

6) 当日のタイムスケジュール

時 間	所要時間(分)	内 容
9:30～10:00	30	受付
10:00～10:20	20	開会式(挨拶・趣旨説明・進行説明)
10:20～10:45	25	討議①グループ分け・情報提供
10:45～11:45	60	討議①自己紹介・討議・意見抽出・まとめ
11:45～12:05	25	討議①発表・投票
12:05～13:00	55	昼休(昼食)
13:00～13:25	25	討議②グループ分け・情報提供
13:25～14:25	60	討議②自己紹介・討議・意見抽出・まとめ
14:25～14:50	25	討議②発表・投票
14:50～15:00	10	アンケート・事務連絡・閉会式
15:00		閉会

II 討議結果

開催日毎、テーマ毎の討議結果として、各グループのまとめや投票結果を報告します。

テーマ1 中心市街地に賑わいを創出するにはどうしたらいいでしょうか。

6月25日（土）開催

【各グループのまとめ】

A グループ

まとめ1	富山市民が富山のことによく知り、好きになり、富山の魅力をアピールする
まとめ2	中心部の駐車場を利用しやすくする（無料デーを増やす。1, 2時間程度無料にするなど）路面電車の一体化
まとめ3	中心部の空き家等を利用する活用
残したい意見	なし

(討議中に出された意見)

- ・中心部の駐車場を1～2時間無料
- ・街中感謝デーが月に2日間あるが2週間ごとにしてほしい（駐車場無料デー）
- ・企業の中心地離れも駐車場の問題にある
- ・ライトレール、JR以外の交通機関の終電をもう少し遅くしてほしい
- ・ライトレールの路線を多方向にのばす
- ・路面電車の南北一体化
- ・商店街が駅南と総曲輪に離れているので一体化する
- ・富山の魅力をアピールできやすい街づくり
- ・きれいで富山の良さを企業にアピールする
- ・富山の魅力をアピールすること
- ・基本富山を好きになること
- ・富山市民も富山市のことによく知る
- ・富山市外・県外の方を呼び込む魅力→観光商店
- ・中心市街地に住む人口を増やす→マンション建設
- ・中心部で空き家になっている不動産の情報公開をわかりやすい方法で提示してほしい
- ・高齢者の街への転居促進、徒歩圏内での安心、安全な生活のアピール
- ・幅広い年齢の方がバンドを組んでいるので練習用に開放してほしい
- ・企業誘致→オフィス増加
- ・さんぽウォーキングコースの整備（街めぐり）
- ・観光バス等のコースにガラス美術館等のコースを入れる
- ・冬期、足元が悪く徒歩で都合が悪い→歩道のアーケード化

- ・中心地で行われるイベントがやっただけで終わっていないか?相互の脈絡があるべき
- ・ハードだけでなくソフトの充実

B グループ

まとめ1	ライトレール・セントラムの無料化 (子供・高齢者) →街なかに行きやすくなる為
まとめ2	賑わいをもたらせるためのイベント開催 ex) 城址公園をイベント会場として活用、情報発信源とする
まとめ3	住みやすい環境づくり 子育ての充実策・支援策 (無料券の拡充、保育園の開設) 高齢者が楽しめる空間の創出 (高齢者用レストラン、ショップ、いわしのスポット)
残したい意見	風の盆のときに「おわらウィーク」を設け、街なかで踊りの講習指導をする

(討議中に出された意見)

- ・城址公園をイベント会場に アニメ 音楽
- ・子供の楽しむスペース
- ・公共保育所の時間の延長
- ・子供の遊びの場の充実 (中学生)
- ・他の市の例では、子どもの出産が2人目、3人目から50万支給されるところもある
- ・高齢者向けの格安レストラン、リラックス効果のあるスペース、子供向けのファミレスを市が提供
- ・空家の活用→保育園にする (保育士が必要)
- ・ライトレールを、子供を無料化する
- ・駐車場の問題
- ・市街地に行く目的がない
- ・小学生くらいになると自ら行けるが、小さい子供は親がいないと無理
- ・子供保育所、保育士の充実
- ・ライトレールの65歳以上の老人と子供を無料化にし、行きやすくする
- ・お年寄りの文化サークルなど楽しみを増やす場
- ・おわら祭りの1週間、富山の街なかで共催イベント
- ・山王祭とおわらは集客効果がある 街中に来るための理由をつくる
- ・城址公園をイベントスペースにする (アニメ)
- ・高齢者向けのバスは制約がありすぎる
- ・50歳60歳段階から老後の楽しみを習慣づける必要あり、教育などを無料で開催する
- ・出店する為のハードルを下げる→最初は無料で (敷金なし)

C グループ

まとめ 1	魅力的な施設作り（子供が利用できる）P R
まとめ 2	公共交通機関の利便性の向上（終バスが早い　本数の増加）
まとめ 3	中心地に近い住宅の再開発
残したい意見	毎週街なか感謝デーにする

(討議中に出された意見)

- ・華やかさや多様な商品が揃う町であって欲しい
- ・中心地区に子供の遊び場がないので全天候型の遊び場があると良い
- ・魅力的な施設作りと周知
- ・再開発が必要な地域の積極的な働きかけ
- ・家族が集まる場所にする（公園や遊園地を造る）
- ・子供たちにも行きたくなる施設作り
- ・映画館をつくる
- ・店舗の閉店が早い
- ・子供の遊び場がない
- ・行政の非効率になるから、人が集まった方がよい
- ・市街地外側に駐車場を作つて、そこからバス、市電で市街地に行く
- ・公共交通機関の終わる時間が早い
- ・路線バスのサイズを小さくして本数を増やし、遅くまで運航して欲しい
- ・交通機関が不便　本数が少ない
- ・郊外と市街地を結ぶ公共交通機関を設ける
- ・中心地に近い住宅の再開発が必要（清水町や梅沢町など）郊外にどんどん住宅が建つて いるのはおかしい
- ・中心地は土地が高いのでアパートが建たない（新しい居住者が生まれない）
- ・駐車場が高いので無料にならないか

D グループ

まとめ1	高齢者をもっと街なかに（お金を使ってくれる） 街なかに人を集め（街なかに健康ランドを）
まとめ2	もっともっと情報発信を（富山の水、名水）
まとめ3	交通の問題の解消を
残した意見	リスクの分散 弱点を強みに変える

(討議中に出された意見)

- ・まちなかに人を集め
- ・試食かまぼこ etc
- ・駅（新幹線）内に富山銘酒飲み比べのできる場所
- ・平日にこそサービスデーをつくる（高齢者向け）
- ・娯楽施設が不足している
- ・街中に1日使える温泉施設
- ・旧大和の中に個人病院等を入れる（多種多様な受診科を）
- ・イベントのチケットがとりやすい
- ・情報発信
- ・アピールが下手（水・酒、美味）
- ・内→外への情報発信（名水巡り）
- ・県外から富山へ移住される方が多い（水・食べ物が美味しいから）
- ・ビュースポット（ex セントラムと富山城 大手モール 立山連峰）
- ・ビュースポット（カメラマーク等）設置 観光客
- ・交通の問題
- ・駐車場代金が高いので無料駐車場を作る（インフラ整備）
- ・街なかの駐車場は有料だからいいかないので無料化する
- ・公共機関の本数が少ない
- ・平地でいいから無料の駐車場を
- ・市独自のエコカー利用への補助（電気代など）
- ・地鉄バスの全低床化を推進して欲しい
- ・国際化にむけて、セントラムには各国語での案内が必須だと思う
- ・欠点→実は利点
- ・空港を街づくりのなかに取り込みをしたらどうか
- ・飛行場の駐車場から電車（南富山）までの移動（電車で）
- ・人口密度が低い→リスクの分散を考えると良い
- ・自転車との事故をさけるため点字ブロックの補正（市役所前）

E グループ

まとめ1	「中心街と郊外のバランスの良い発展」 中心街のほかにも郊外でも住みよい中核エリアを
まとめ2	生活者のニーズにあった交通網を整備する地域のコミュニティバスなど利用しやすいニーズにあった時間対応とルート対応。
まとめ3	より質の高い文化活動。市だけではなく県全体で考える。文化面でのレベルアップ
残した意見	街なかに富山を印象づけるものが何か必要

(討議中に出された意見)

- ・だんごが多すぎるので、だんごをまとめる
- ・にぎわい拠点の整備案がどれもハンパ
- ・バランスの良い発展を！（だんごをそれぞれ）
- ・郊外と違って中心街ではおもいきったことができない
- ・中心街こそコンパクト
- ・コンパクトな街づくりではなくバランス良く
- ・中心地と郊外それぞれの活性化が必要と思われる
- ・中心地でしか利用できないもの
- ・郊外ショッピングセンター周辺の住民はその場所での「歩いて生活」が可能
- ・「まちなか」にこだわらない
- ・それぞれのだんご内で充実させる
- ・町内ごとか校区ごとで住民ニーズに応える
- ・第一にバスをもっと出して利便性を良くする
- ・まちなかバスなどもっと通してほしい
- ・「文化」的に考えれば県でやるべき
- ・何を創るにしても質の高いものを！
- ・現在3流のものを2流に！レベルアップ
- ・植物園などなど中途半端である
- ・まちづくりは「市」でなく「県」で考える
- ・沢山ある美術館でも2流、B級のものを展示する

【投票結果】

順位	まとめ（投票対象）	票数
1	「中心街と郊外のバランスの良い発展」中心街のほかにも郊外でも住みよい中核エリアを	14 票
1	中心部の駐車場を利用しやすくする（無料デーを増やす。1、2時間程度無料にするなど）路面電車の一体化	14 票
3	高齢者をもっと街なかに（お金を使ってくれる）街なかに人を集める（街なかに健康ランドを）	11 票
4	住みやすい環境づくり 子育ての充実策・支援策（無料券の拡充、保育園の開設） 高齢者が楽しめる空間の創出（高齢者用レストラン、ショップ、いやしのスポット）	9 票
5	中心部の空き家等を利用する活用	8 票
5	公共交通機関の利便性の向上（終バスが早い　本数の増加）	8 票
7	より質の高い文化活動。市だけではなく県全体で考える。文化面でのレベルアップ	7 票
8	富山市民が富山のことによく知り、好きになり、富山の魅力をアピールする	6 票
8	ライトレール・セントラムの無料化（子供・高齢者）→街なかに行きやすくする為	6 票
8	賑わいをもたせるためのイベント開催 ex) 城址公園をイベント会場として活用、情報発信源とする	6 票
11	風の盆のときに「おわらウィーク」を設け、街なかで踊りの講習指導をする	5 票
11	リスクの分散 弱点を強みに変える	5 票
13	生活者のニーズにあった交通網を整備する地域のコミュニティバスなど利用しやすいニーズにあった時間対応とルート対応。	4 票
13	魅力的な施設作り（子供が利用できる）PR	4 票
13	もっともっと情報発信を（富山の水、名水）	4 票
16	中心地に近い住宅の再開発	2 票

6月26日（日）開催

【各グループのまとめ】

Aグループ

まとめ1	バスの路線を細かく広げる
まとめ2	高齢者を低料金で中心部へ移住
まとめ3	高齢者をサポートする若者の職域を作る
残したい意見	老人が安心して暮らせる一人暮らしのアパート

(討議中に出された意見)

- ・高齢者を中心部へ（病院、温泉、高齢者ホームの設置）
- ・老人の一人暮らしの方が安心して暮らせるアパートなどを中心部につくる
- ・若者の職場があれば集まる
- ・街なかサロンの大型化
- ・ライトレールの駅まで歩いていけない
- ・コミュニティバスのコースをもっと細かく見直す
- ・車のない人がもっと利用しやすいように

B グループ

まとめ1	行事を増やして人が集まるようにする その為にスーパー、企業、病院、コンビニなどに掲示してほしい意見が述べられるように
まとめ2	公共交通機関のバス停を増やしてほしい 中心市街地で一定の買い物をすると、公共交通を無料あるいは100円にする 月1回バス代100円の実施
まとめ3	スケートリンクの設置 中心街においしいところを沢山作ってほしい
残したい意見	郊外への大型店舗の制限 出張販売

(討議中に出された意見)

- ・郊外の大型店舗の制限（青森で実施している）
- ・ライトレールとセントラムを早くつなげてほしい。15分間隔でライトレールが出ているが、各駅停車なので北口まで30分かかるので不便。JR東富山駅は富山駅まで5分で着くのでその点便利
- ・ライトレールは狭く長い時間乗っているのは苦痛である
- ・月1回か週1回くらいバス代が100円の日があるといい。若年層を集めるためにも、月1回100円デーが必要ではないか
- ・バス停を増やし、乗りやすいようにする
- ・中心街で一定の買い物をすると公共交通を帰り無料にしてほしい
- ・主婦の集まる場所に、市・県の情報がわかるようなポスター、テロップ等を流す
- ・病院、スーパー、会社等に市や県からのお知らせのコーナーを必ず設けるように指導していく
- ・個人の意見を述べる、書く、打ち込む場所が欲しい
- ・市内工場等企業、市役所、県庁等の見学会を開催してほしい
- ・出張販売（スーパー・マーケットバス）
- ・大和の跡地に、図書館とともに娯楽性のあるスケートリンク等の設置を希望
- ・中心街の行事をもっと増やしてほしい
- ・中心街に公共無線LANを作つてほしい。若い人が集まるのでは？金沢市ではしていく方針
- ・以前実施していた10000円買ったら11000円になる商品券を毎年実施してほしい

C グループ

まとめ 1	公共交通機関の充実のため本数を増やしてほしい
まとめ 2	街なかで若者が遊ぶ場所がない
まとめ 3	街なかで気安く利用できるトイレがほしい
残したい意見	現在ある空き住宅地を再生しやすくしてほしい

(討議中に出された意見)

- ・街なか感謝デー等の企画やイベントの情報が街までいかないと耳に入らない
- ・自動車を使うのが当たり前
- ・住居を交通の便のいい所に移動する
- ・車を持たない中高生が遊びに郊外へ行くには移動が不便
- ・地鉄バスの本数が少なく、料金が高いので毎日移動しようと思わない
- ・車社会のため、公共交通はなかなか利用しない（バスなどは数が少ないので利用しにくい）
- ・バス・電車等の利用が不便（一時間に一本だったり、料金が自動車より高くつく）
- ・買い物をして荷物が重くなると、公共交通を利用してまで出かける気にはなれない
- ・コンパクトにしたいなら新興宅地を販売するな
- ・街なかに高齢者が使用するトイレを増やしてほしい
- ・行きたい時間にバス・電車の時間がない
- ・大学、高校生がぎっしりあふれる登下校時に、きまりを守り、感じのよい態度で明るさ、頼もしさを感じ、高齢者も明るい日々を過ごせる
- ・街なかでトイレをお願いしたらトイレを借用させてもらえる
- ・徒歩で中心地での用をする女性、こども、高齢者は、バス・市電を使わせてもらっている
- ・自転車がずらりと並んでいるが、馴れない自転車は怖い
- ・時間切れにならぬよう考えながら、決められた時間で安く有効に買い物をする
- ・街なかのトイレが使いやすければ、安心して使用できるので作ってほしい
- ・新興住宅地をなくし、従来ある住宅地をリユースする
- ・若者が気軽に利用できる店が中心市街地には少ない
- ・イオンやファボーレ等は駐車料金がかからないが、マリエやフェリオ等は料金がかかるので行こうと思わない
- ・公共交通機関を充実させるため本数を増やしてほしい（コストがかかる）
- ・街なかに行く理由や魅力がない
- ・中心市街地に自分の必要とする物が少ない

D グループ

まとめ 1	電車に自転車を乗せられるような車両を設ける
まとめ 2	観光ルートバスの運行
まとめ 3	駅前整備（スーパーとか）
残したい意見	家族（大人数）で公共交通を利用したら費用が高くなる

(討議中に出された意見)

- ・バスの各停留所の整備（屋根やベンチ等）
- ・公園を増やす
- ・大和だけで事足りる（大和からの次の目的地がないから面白くない）
- ・電車に自転車を乗せられるような車両を設ける
- ・公共交通が家から遠いと利用しにくい
- ・家族で公共交通を利用したら費用が高くなる
- ・牛島あたりに市役所を持ってきたら
- ・駅前がホテルだけでだめである
- ・観光ルートバスの運行
- ・駅前には男性の物が少ない
- ・駅前にはホテルは多いが商店が少ない
- ・駅前地下の商店の増設

E グループ

まとめ 1	東西南北に串団子の拠点を作る
まとめ 2	市電を延長する
まとめ 3	衣・食・住から医職充へ
残したい意見	なし

(討議中に出された意見)

- ・大団子を真ん中にして東西南北に小団子を作る
- ・開業医院ビルを東西南北に設置
- ・コミュニティタクシーを巡回させる
- ・総合医院とコミュニティタクシーをつなげる
- ・バス停、ライトレール、電停の付近に駐車場の造成が必要
- ・バス停、ライトレール、駅の付近に病院の建設
- ・医・職・充
- ・総合病院+市の機能を市内に 5 か所
- ・高層化よりも横型のまちづくりを
- ・市内数か所の繁華街を復活させる
- ・街なかに遊戯施設を作る
- ・街なかにホテルを作る（ライトレール沿線）
- ・中心市街地のライフスタイルを、職・住一体化に
- ・観光をもっと全国に P R する
- ・ライトレール・市電を南富山～岩瀬まで延長
- ・中心地から 30 分で岩瀬。1 時間 30 分で山へ
- ・城址公園を中心とした遊歩道を作る

【投票結果】

順位	まとめ（投票対象）	票数
1	公共交通機関のバス停を増やしてほしい 中心市街地で一定の買い物をすると、公共交通を無料あるいは100円にする 月1回バス代100円の実施	12票
1	電車に自転車を乗せられるような車両を設ける	12票
3	バスの路線を細かく広げる	11票
3	街なかで若者が遊ぶ場所がない	11票
5	行事を増やして人が集まるようにする その為にスーパー、企業、病院、コンビニなどに掲示してほしい 意見が述べられるように	9票
6	市電を延長する	8票
6	衣・食・住から医職充へ	8票
6	高齢者をサポートする若者の職域を作る	8票
9	東西南北に串団子の拠点を作る	7票
10	郊外への大型店舗の制限 出張販売	5票
10	街なかで気安く利用できるトイレがほしい	5票
10	現在ある空き住宅地を再生しやすくしてほしい	5票
13	家族（大人数）で公共交通を利用したら費用が高くなる	4票
14	高齢者を低料金で中心部へ移住	3票
14	スケートリンクの設置 中心街においしいところを沢山作ってほしい	3票
16	公共交通機関の充実（本数を増やしてほしい）	2票
16	駅前整備（スーパーとか）	2票
18	老人が安心して暮らせる一人暮らしのアパート	1票
18	観光ルートバスの運行	1票

テーマ2 市民の防災意識を向上させるにはどうしたらいいか。

6月25日（土）開催

【各グループのまとめ】

A グループ

まとめ1	家族の避難場所を決めておく (市から小・中学校を通して、災害時のことと話をう、アンケートの実施)
まとめ2	各町内、校区での防災に対する組織作り 定期的に講演、DVD等で啓蒙する
まとめ3	災害ネットワーク作り (情報収集の方法を普段から知っておく)
残したい意見	備蓄品の確認 (県や市の非常持ち出し品の研究・確認をしてほしい)

(討議中に出された意見)

- ・各町内で、防災グッズの用意をしている所としていない所がある（一元化）
- ・町内ごとに市の職員が防災講演を実施する
- ・防災に対しての話をする場と町内ごとに実施する
- ・民生委員から後の縦割りを地区でよく話し合う。災害時のときの公の情報提供の流れを町内レベル、地区レベルまで知らせる、知る
- ・災害ネットワーク作り (県、市、町内、企業、学校、病院等の情報収集の必要性)
- ・家族の防災意識として、避難場所を決めておく
- ・小学校、中学校へ市からの伝達でアンケート実施
- ・防災に対する、常に新しい情報の公開、収集をする

B グループ

まとめ1	行政と住民とのコミュニケーションづくり。住民にもっとアピールして欲しい
まとめ2	出前講座について、地域・校区・町内会単位で実施してもらう
まとめ3	役割分担、訓練実施
残したい意見	なし

(討議中に出された意見)

- ・富山の災害は山から来るものについても考えるべき
- ・二次災害についても知る
- ・地域のコミュニティの強化
- ・町内会の組織づくり
- ・地域、校区、それぞれの役割を決め訓練する
- ・出前講座の開催（校区、町内会でどんどん来てもらう）
- ・文書だと理解しにくい
- ・危機意識のなさが問題
- ・富山県民防災に対する意識が薄い
- ・地域毎の避難訓練の実施

C グループ

まとめ1	住民同士の縦・横のつながりを強化する（高齢者、学者の知識・記録を大切に）
まとめ2	自治体の想定レベルをもっと上げる（状況に応じて旧大和、城址公園等の利用）
まとめ3	状況に応じた避難方法または形式を決定する（新しいハザードマップ） それに伴う実質的な訓練の実施と継続
残したい意見	富山市防災マップに詳細な地区毎の情報を載せて家庭に配布する

(討議中に出された意見)

- ・ つなみ対策、高波対策
- ・ 高浪災害
- ・ 川の氾濫（常願寺川）
- ・ 土砂崩れ
- ・ 訓練を必ずやる
- ・ 炊き出しなどの訓練をして欲しい
- ・ 地区毎の（細かく）ハザードマップを作製して欲しい
- ・ 何が起こるか分らないのが、自然災害（対策、方法）
- ・ 高齢者の知恵を借りることが大切（昔からの言い伝え）
- ・ 富山市防災マップに各地区の注意情報をのせる
- ・ 防災知識の共有
- ・ 設定値（安全だという）は安心できるのか（より以上の想定をして考える）
- ・ 毎年災害訓練を継続する
- ・ 家族で話合う
- ・ 防災弱者を基準とした訓練対策
- ・ 健康な人だけでなく皆が助かる方法も考える
- ・ 旧大和を有効活用する（一時的避難）

D グループ

まとめ1	富山県はもともと災害が少ないので、今が意識を高めるチャンス
まとめ2	子供からお年寄り、男性や女性など様々な方に参加してもらえる防災教育や避難訓練を地域の夏祭りなどの行事に織り交ぜてみる
まとめ3	一番身近な災害が起きる可能性の高い河川から防災意識を高めていく
残したい意見	防災意識の継続の為に講演会を定期的に行う 講演会を有名な方にしてもらう（芸能人とか）情報冊子の発行

(討議中に出された意見)

- ・仙台でも防災意識は低い
- ・富山は災害が少ない
- ・富山は災害が少ない地域なので、個人で意識を高めるのは難しい。広報や講演をする。
- ・避難訓練に参加する
- ・幼年・小学校から防災教育を行う
- ・女性や高齢者でも参加しやすいように、訓練ではなくゲームのようなマニュアルを作る
- ・いざ災害が起きると、助け合いが必要になるので、防災に関わらず地域住民とのコミュニケーションを高める機会を作る
- ・地域の夏祭り等の行事と防災をセットでやれば人が集まる
- ・富山は河川が多いので、特に洪水対策が必要
- ・高齢者のみの世帯を町内で支援する
- ・情報（講習 冊子）を得るところがない わからない
- ・災害用物資の準備 （非常袋など）

E グループ

まとめ1	災害危険度マップの周知・徹底 行政からの発信（特に危険度の高い町内に対して）自主防災組織作りの支援
まとめ2	ハザードマップの検証・見直し いつの基準で作られたのか？それで大丈夫なのか？
まとめ3	災害発生時の行動指針の作成 過去の経験をもとに小冊子の作成・配布
残したい意見	乳幼児向けの備品の確保

(討議中に出された意見)

- ・災害時の生活の在り方までも考える必要がある
- ・経験者の生の声も必要→対応がしやすい
- ・地震が起きる際のノウハウがあればよい
- ・視覚に訴えるものが必要
- ・富山は防災意識が低いことも関係している
- ・認識が低すぎる→組織作りをしっかりする、フォローの方法を考える、公共放送を使って呼び掛ける
- ・それぞれの場所によって被害が違う
- ・防災に対する認識が低すぎる
- ・市の持っている情報が市民に発信されているのか
- ・液状化、河川の氾濫はそれぞれ違う→それを市民が認識しているのか
- ・自主防災組織は現実にあるのか（マンションはある）
- ・自分達の避難場所がわからない
- ・災害の内容によってそれぞれ認識しなくてはいけない
- ・非常食等の準備はなされていないのが現実
- ・家族の中で話し合い等はしているのか
- ・洪水ハザードマップ（危険地域、緊急時の避難先・ルートの明確化）
- ・液状化建物危険度マップの開発・発信（啓蒙活動）、危険度の高い地域での自由防災組織の行政の立ち上げ支援
- ・災害マップの作成はいつを基準にされているのか→市民は知る必要がある
- ・防災マップを配布して終わるのでは意味はない→そのあととのつめが必要
- ・会社の方が（システム等）よっぽどしっかりとしている
- ・個人の危機管理がもとになっている→それを高めるために啓蒙
- ・自分一人では何もできない
- ・地域の為、個人の為の情報を行政から出してもらう必要あり

【投票結果】

順位	まとめ（投票対象）	票数
1	状況に応じた避難方法または形式を決定する（新しいハザードマップ） それに伴う実質的な訓練の実施と継続	18 票
2	子供からお年寄り、男性や女性など様々な方に参加してもらえる防災教育や避難訓練を地域の夏祭りなどの行事に織り交ぜてみる	15 票
3	出前講座について。地域、校区、町内会単位で実施してもらう	11 票
4	災害危険度マップの周知・徹底 行政からの発信（特に危険度の高い町内に対して）自主防災組織作りの支援	10 票
5	家族の避難場所を決めておく (市から小・中学校を通して、災害時のことと話を合う、アンケートの実施)	9 票
6	各町内、校区での防災に対する組織作り 定期的に講演、DVD等で啓蒙する	7 票
6	行政と住民とのコミュニケーションづくり。住民にもっとアピールして欲しい	7 票
8	ハザードマップの検証・見直し いつの基準で作られたのか？それで大丈夫なのか？	6 票
8	災害発生時の行動指針の作成 過去の経験をもとに小冊子の作成・配布	6 票
10	住民同士の縦・横のつながりを強化する（高齢者、学者の知識・記録を大切に）	5 票
11	富山市防災マップに詳細な地区毎の情報を載せて家庭に配布する	3 票
11	防災意識の継続の為に講演会を定期的に行う 講演会を有名な方にしてもらう（芸能人とか）情報冊子の発行	3 票
11	富山県はもともと災害が少ないので、今が意識を高めるチャンス	3 票
14	災害ネットワーク作り（情報収集の方法を普段から知っておく）	2 票
14	役割分担、訓練実施	2 票
16	備蓄品の確認（県や市の非常持ち出し品の研究・確認をしてほしい）	1 票
16	自治体の想定レベルをもっと上げる（状況に応じて旧大和、城址公園等の利用）	1 票
16	一番身近な災害が起きる可能性の高い河川から防災意識を高めていく	1 票

6月26日（日）開催

【各グループのまとめ】

Aグループ

まとめ1	声掛け運動（コミュニケーションを密にする）
まとめ2	災害時の備えの確認
まとめ3	シミュレーションのCG化
残したい意見	有事の際の心構え

（討議中に出された意見）

- ・一番大切なのは命（自分の命、他人の命）
- ・空襲の経験から自力で考える力を持つ事が大切
- ・声掛け運動（コミュニケーションを密に）
- ・家族間で避難場所を決める
- ・非常用リュックを用意
- ・自転車で避難
- ・トランシーバー、タクシー無線の活用
- ・NTT災害連絡ダイヤルを利用する
- ・防災CG作成
- ・経験がない分シミュレーションしておく

Bグループ

まとめ1	定期的な訓練（地域・校下）
まとめ2	町内全員の緊急連絡網（コミュニケーションを強める）
まとめ3	防災用品の備付による防災意識の高揚
残したい意見	行政・市による防災訓練

（討議中に出された意見）

- ・町内単位の研修会をときどき行う
- ・いろいろな機会をとらえて啓蒙活動を行なう
- ・子供たちに実際の映像や本などで学ばせる
- ・町内の連絡網を作る
- ・自主防災組織の役割
- ・防災訓練（避難訓練）を行なう
- ・避難グッズの販売斡旋
- ・救急救命訓練を定期的に行ってほしい

C グループ

まとめ 1	自主防災組織単位での防災訓練への積極的な参加を推進する
まとめ 2	防災マップを分かり易く常備できるような形態で配布、そしてその徹底
まとめ 3	簡易浄水器の設置（町内会単位）
残したい意見	避難場所標識のデザインを分かりやすくする（外出先での避難場所を確認するためにも）

(討議中に出された意見)

- ・自主防災組織をもっと増やす努力をする
- ・防災訓練、講演会などに進んで参加するように声掛けする
- ・防災マップを常に持って行動する
- ・防災訓練を町内単位で実行
- ・避難場所を明記して玄関にはっておく
- ・防災マップの掲示（主要個所）
- ・自主防災組織を作ることによりメリットを増やす
- ・地震体験施設の利用しやすくする（町内単位でなく家族でも体験できるようにする）
- ・避難場所標識のデザインをわかりやすく

D グループ

まとめ 1	自分の安全は自分で守る 広報活動を活発にしてほしい
まとめ 2	ボランティアでも必要なところは有償にしてほしい
まとめ 3	非常持出用の袋だけも配布する
残したい意見	なし

(討議中に出された意見)

- ・自分の安全は自分で守る
- ・広報活動を活発に
- ・自分で準備する
- ・天災についての条例を作るべき
- ・ボランティアでなく、お金を払ってほしい
- ・各町内に行き、今日の話合いの内容を説明すればいい
- ・行政に期待しない→自分で準備する
- ・義務化意識を高める訓練をする
- ・想定外がきたら何もできない
- ・非常持ち出し用袋だけでも配布する

E グループ

まとめ 1	地域住民とのつながりを高めるため、あいさつや声掛けを徹底していく
まとめ 2	教育現場で命の大切さを教える 強者が弱者を助ける心がけ（動物愛護など）
まとめ 3	一般市民に避難先や危険地域などの情報が行きとどくシステム（広報やインターネットなど）
残したい意見	地下槽の設置

(討議中に出された意見)

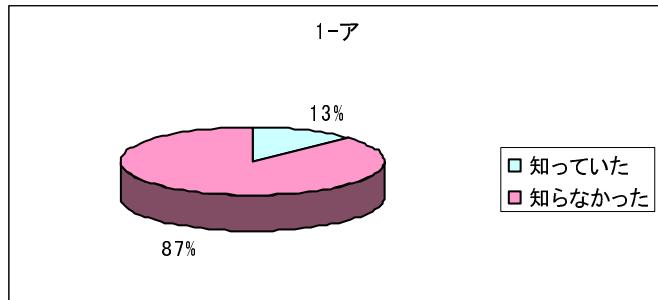
- ・地下槽の設置（水を貯めて排出装置）
- ・一般市民に情報が行き届くシステム（広報ネット）
- ・富山市の人口に対して避難場所の確保は充分なのかどうか
- ・公共施設以外にも避難先にできるように対応していってほしい
- ・地域・町内の班長→町内会長→校下単位 連絡網の確保
- ・地域住民のつながりを高めるため、声掛け、挨拶など徹底
- ・誰が住んでいるかわかるように（集合住宅と一戸建ての区別なく）
- ・教育現場での命の大切さを教える
- ・強者が弱者を助ける心がけ
- ・動物愛護などを通じて命を守る行動を教える

【投票結果】

順位	まとめ（投票対象）	票数
1	声掛け運動（コミュニケーションを密にする）	16 票
2	自主防災組織単位での防災訓練への積極的な参加を推進する	12 票
3	シミュレーションのCG化	10 票
3	防災用品の備付による防災意識の高揚	10 票
5	地域住民とのつながりを高めるため、あいさつや声掛けを徹底していく	9 票
5	定期的な訓練（地域・校下）	9 票
7	教育現場で命の大切さを教える 強者が弱者を助ける心がけ（動物愛護など）	8 票
8	町内全員の緊急連絡網（コミュニケーションを強める）	7 票
9	一般市民に避難先や危険地域などの情報が行きとどくシステム（広報やインターネットなど）	5 票
9	災害時の備えの確認	5 票
9	自分の安全は自分で守る 広報活動を活発にしてほしい	5 票
9	ボランティアでも必要なところは有償にしてほしい	5 票
13	非常持出用の袋だけも配布する	4 票
13	防災マップを分かり易く常備できるような形状で配布、そしてその徹底	4 票
13	簡易浄水器の設置（町内会単位）	4 票
16	避難場所標識のデザインを分かりやすくする (外出先での避難場所を確認するためにも)	1 票

III 参加者アンケート結果

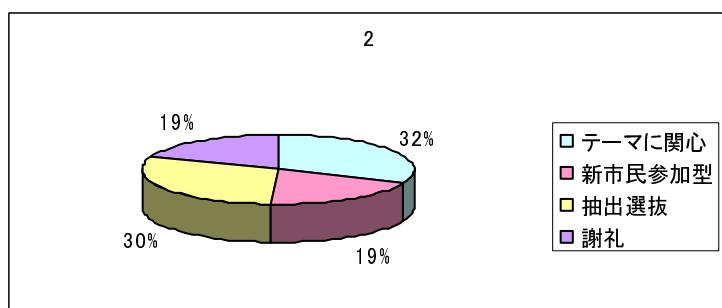
1. (ア) 案内が来た時点での「市民討議会」をご存知でしたか？



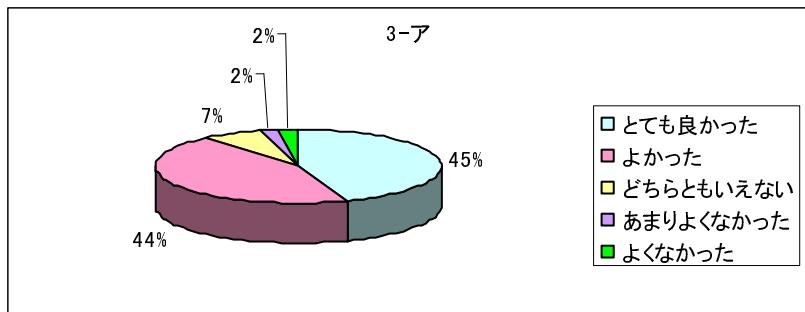
(イ) 知っていた方は、何でご存知でしたか？

- マスコミを通して 4
討議会チラシを見て 1
行政の広告で 1

2. 参加動機についてお聞かせ下さい（複数回答可）



3. (ア) 参加された感想をお聞かせ下さい



(イ) (ア) で選ばれた理由をお聞かせ下さい

(とても良かった 良かった)

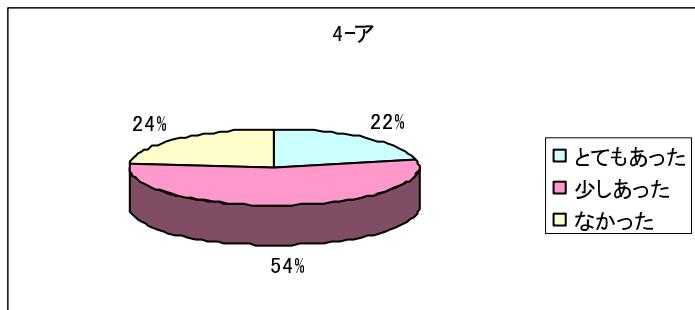
- ・こういう機会がなければ真剣にまちづくりや防災意識について話し合うことはないから普段話さないようないろいろな方々と討論する機会を持ってよかったですと思う。
- ・テーマに关心が持てた。とても勉強になった。
- ・いろいろな考え方、地域の差があり参考になった。
- ・最初は会の進行説明に行政らしさを感じて嫌になった。
- ・参加している人たちとの意見交換がとても有意義だった。
- ・知らない人とのコミュニケーションができ、普段言いたかったことを公の場で言えたから。
- ・いろんな方のお話を聞けたのでよかったです。
- ・討議の形式を知らなかったので、最初はどうなるかと思った。
- ・普段から考えていることをテーマにされていたから。
- ・知らない人の意見を聞くことができ、また、普段口にすることのないテーマについて語り合えたから。
- ・いろんな意見を伺えたこと。市民の一人としてよかったですと思う。
- ・参加していろんな意見が出たのがよかったです。
- ・身近なテーマについてディスカッションできて新しい発見もあり有意義でした。
- ・災害にたいする意識の低さが自覚できたから。
- ・テーマに対する参加者みなさんの意見の高さにふれ刺激になりました。
- ・市民の声を行政に伝えるまちづくりに活かせるから。
- ・いろいろ人の考えが聞けた。
- ・普通の生活で感じている事を、発言する場が無かったから。
- ・他人の考え方や意見が聞けた。
- ・中心市街地の活性化の必要性がわかった。

- ・防災意識が出てきた。
- ・面白かった。
- ・たくさんの意見を聞くことができました。
- ・知らない人と同じテーマについて話し合うことに刺激を感じたから。
- ・市の行っている事に対して関心がもてた。
- ・老若男女が集まって話し合う場が普段ないのでおもしろい。
- ・富山の事について勉強になった。
- ・年齢様々で話すと知らないこともあり、ためになった。
- ・いろいろな意見が聞けた。
- ・沢山の意見を聞くことができた。
- ・普段話すことのない年代の方々と色々意見を出し合って話をして色々な考え方ふれられたから。
- ・一度参加して市民とのつながりがほしかった。
- ・年齢の違う方々と活発に意見交換できたから。
- ・意識が高まった。特に防災は心がけてみようと思う。

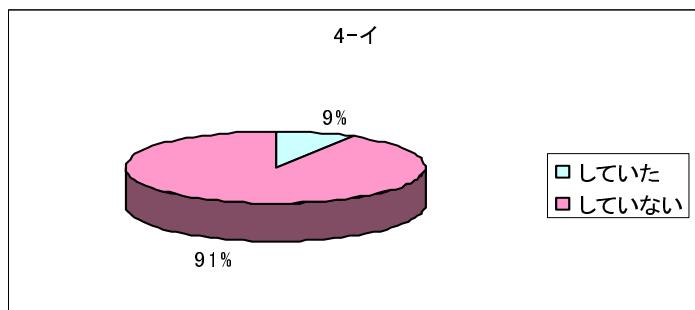
(あまり良くなかった 良くなかった)

- ・司会者等のアナウンスが聞き取りにくい。グループ内の話し声も聞き取りにくい。
- ・会自体がテレビカメラもあり JC の人や市のスタッフもたくさんいてイベントのように感じた。
- ・意見がどう反映されるかがわからないので本気モードになっていないかも。
- ・討議のテーマからすると深まったとは思えない。
- ・あまりにも路線が決められすぎ。
- ・議論する時間がもう少しあれば良かった。

4. (ア) この討議会に参加する前、「まちづくり」に対して興味がありましたか？



(イ) この討議会に参加する前に、「まちづくり」に関わる活動をされていましたか？

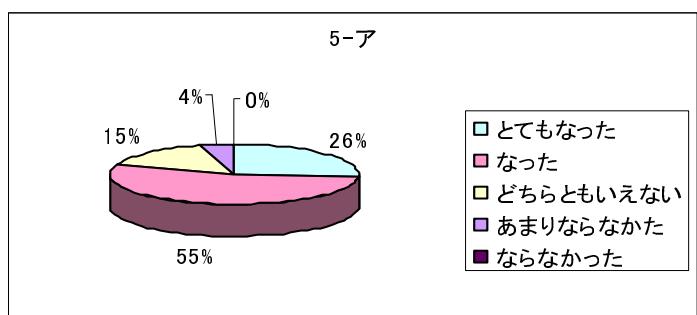


(ウ) されていた方は、何をしておられましたか？

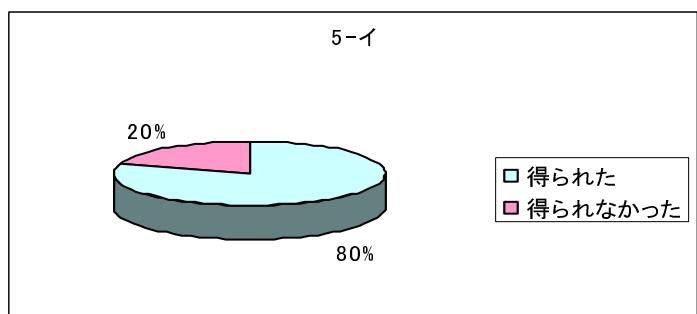
市から郵送されてくるアンケートの回答

労組団体を通して

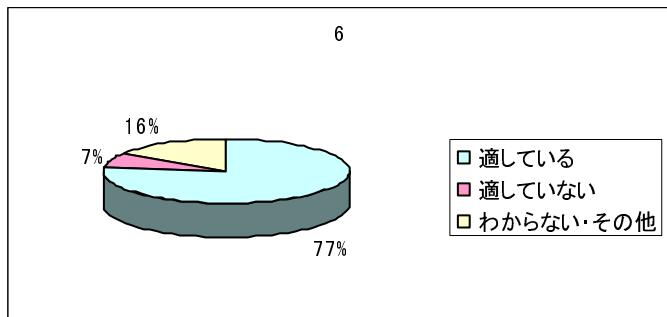
5. (ア) この討議会に参加して、これからも「まちづくり」に参加していこうという気持ちになりましたか？



(イ) この討議会に参加して、「まちづくり」に参加しているという実感を得られましたか？

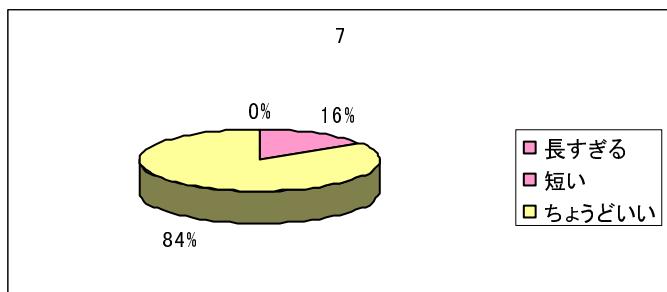


6.この討議会は市民の声を行政に届ける手法として適していると思いますか？

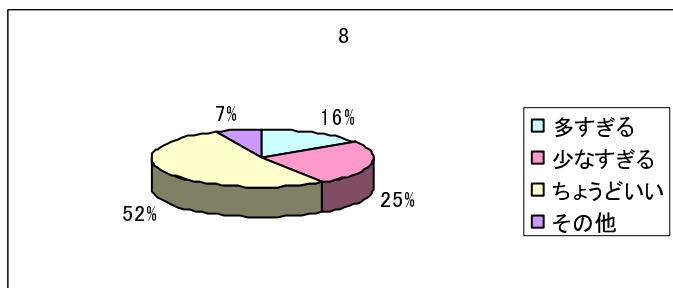


- ・本討議会の参加応募人数に対しての 50 名なのか教えていただきたかった。
- ・この討議会での内容がどんな形で行政に反映されるのか見守りたい。
- ・どこまで意見をくみ上げてくださるのかこれからよく広報をチェックします。
- ・意見の処理が判らないので行政に伝わるかどうか判らない。
- ・やり方の一方法だろうと思います。
- ・成果が出ないと言えないかも…
- ・もう少しテーマを小さくしての話し合いも良いのではと思った。
- ・もう少しテーマを限定して話し合いをしたら良い。
- ・このような場を積極的に増やしていくべきと思う。
- ・この討議会で発表された意見がどのような形であつかわれるのかわからないから。
- ・適しているかどうかは受け止める行政次第。
- ・討議結果が伝えられた後の報告。どのように報告されたか知つてから。
- ・行政に伝わるかどうかは疑問。
- ・意見が多いが深める事ができないので全体会が必要。

7.討議時間の長さについてお聞かせ下さい



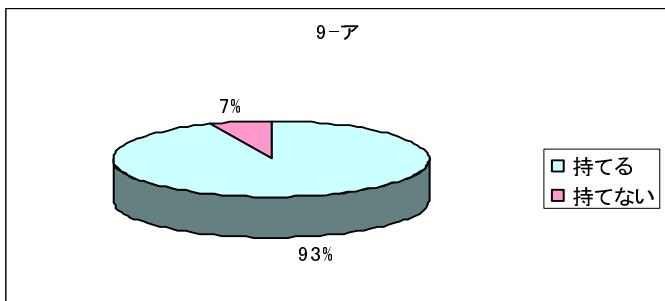
8.情報提供の量についてお聞かせ下さい



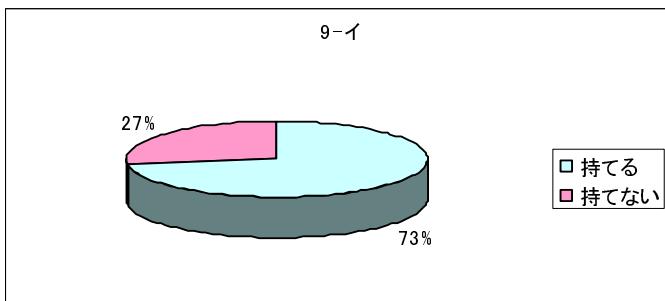
- ・資料の文字が小さいし、読みにくい
- ・問題が大きすぎる。もっとしづって
- ・専門用語をわかりやすく言い換えてほしい
- ・抽象的な情報が多くすぎる（規模が大きいので）苦慮した
- ・主催者は会議所(青年)らしいがあいまいだった
- ・プレゼンの仕方が大切

9.討議テーマについてお聞かせ下さい

(ア) 討議1について



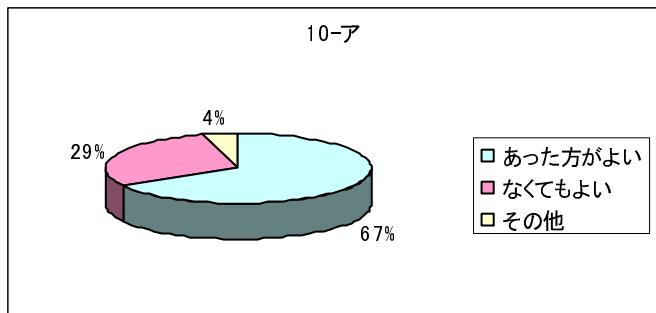
(イ) 討議2について



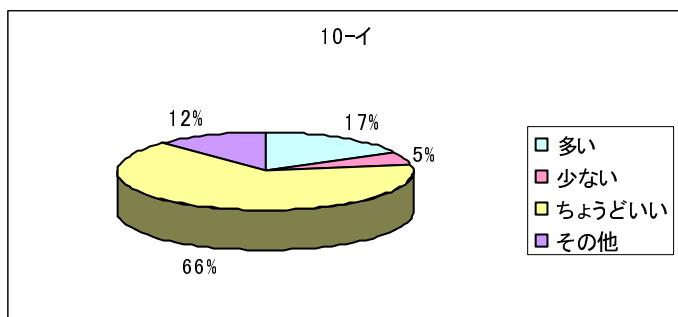
(ウ) 話し合ってみたいテーマがあれば、ご記入下さい

- ・新しいイベントを考える
- ・環境都市を目指すために
- ・高齢化社会の取り組み
- ・教育問題
- ・富山をブランド化させる為には
- ・福祉、緑のまちづくりを考えたい
- ・富山の魅力発掘
- ・中高年の再就職
- ・国際化
- ・公共交通のあり方
- ・ライトレールは必要かどうか
- ・市政のダメだし
- ・子供がすみやすいまちづくり
- ・老人の一人暮らし
- ・下水道普及について
- ・子育てについて(学童保育・子供の病気の時など)
- ・地域での細かい要望等はどう行政に伝えればいいか
- ・再度防災についての話し合い

10. (ア) 謝礼についてお聞かせ下さい

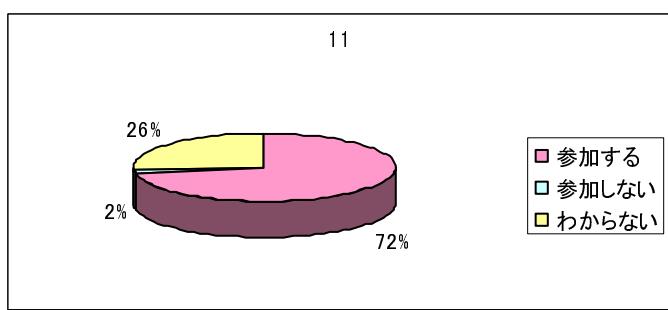


(イ) 謝礼金額についてお聞かせ下さい



- ・額はもう少し低くてよい
- ・ない方がいい
- ・意見を聞いていただけるなら、ボランティアと思って参加できる
- ・謝礼しなくてよいかわりに、美術館などの入場券がほしいです
- ・駐車料金が少しあると良い

11.今後、同じような企画の参加要請があった場合、参加しますか？



12. 討議会を通して感じたことやご意見をお聞かせ下さい

- ・討議会の意見についてどのように生かしていくのかフィードバックしてほしい。
- ・富山県が良い県になることを期待しています。
- ・情報の提示に問題があるのかもしれないが同じような発想の意見が多くかった。
- ・現状の問題と対応実施事項をもう少し簡単な説明とする方が幅広の議論になるのでは?
- ・今まで体験したことがない貴重な体験となった。
- ・自分たちの意見が少しでも市政に反映されるとうれしい。
- ・知らない人達と一緒に話し合いができるよかったです。とても勉強になりました。
- ・若い人が少ないようだ。
- ・富山は人が集まる場所があまりに少ないので、きっかけは何であれ、参加できるものを増やしてほしい。
- ・街づくりに関わる若者が集まる場所を真剣に作ってほしい。
- ・会場は「見学自由」で良いと思いますが、もう少し適したオープンスペースが良い。
- ・市民プラザは音響など問題があり少しつらかった。
- ・マイクの音声が聞きづらく、様々な案内を的確に聞き取ることができなかった。
- ・ホールの構造上の問題と考えられるので次回は別の場所にした方が良い。
- ・マイクがあると聞きづらかった。
- ・富山市にはかなり多くのイベントがある。県外者が再度きたがる富山にするような案を募集すればよい。
- ・売薬さんたちを富山市宣伝大使に任命して全国に伝えればよい。
- ・このアンケート用紙を昼食時にくれればよかった。
- ・会場の音響が悪すぎる。響きすぎてわからない。
- ・日頃考えていることなど他の方の意見が多数聞けて参考にもなったし、自分自身の今後に生かしたいと思います。
- ・街づくりにも協力していきたいと感じた。
- ・オープンスペースではなくきちんとした場所でやるべき。
- ・昨年は会議室で行ったとのことですが、今回のようにホールを借りて行うことにより会議的なイメージがなくリラックスしてできました。今後も継続をお願いします。
- ・オープンスペースでの広々とした空間での会議ははじめてだが楽しい時間でした。
- ・議題にあがったことについて意識が高まったり、自分だけでは気が付かないことに気付いたので良かった。"
- ・マイクが響きすぎて最初の方は何を言っているのかわからなかった。
- ・スライドの作り方があまりうまくない。
- ・いろいろな方に知り合えてよかったです。反面意見が制約されすぎた。
- ・アイディアが必要なら多数の参加がある事が望ましい。深まりが必要なら少数参加でも良い。もっと型にはめずらしく自由な意見でよいと思う。

- ・私たちが自発的にまちづくりに関わっていく事の大切さを痛感した。
- ・普段話せない人の意見を聞くことができて有意義であった。
- ・午前のテーマと午後のテーマとの違いがありすぎて、ディスカッションをしてもなかなかテーマをほりさげる、中へ入り込むことができず中途半端で終わったと思うので、午前、午後のテーマがつながるような形が良い。
- ・今まで無関心だったと思います。
- ・これから広報を読むときはもう少ししっかり目を通したいと思いました。
- ・良い経験ができたと思う。
- ・参加者の沢山の意見が聞けて良かった。
- ・市町村でこんな風に色んな年代の方と話をする機会のイベント・行事などあれば、話すきっかけとして良いと思うので、そういうものがあればいいと思った。
- ・世代ごとにグループでテーブル分けをして討議したほうがもっと色々な意見がでたのでは。
- ・年配と若者の捉え方は異なると思います。
- ・なるほどと思う事が沢山あったので実行してもらいたいです。
- ・普段自分が考えてもいない事が違う年代の方々と話することで得ることができた。このような市民参加型の市政がもっと増えればいいと思う。
- ・真剣に考えあってみたい。
- ・色々な方々と一つのテーマについて話し合いが出来、意見交換ができて良かった。
- ・自分より年齢の高い人の意見が参考になった。
- ・他の人の考え方や意見が聞ける事はいい事だと思う。
- ・行政の立ち位置を明確にしてほしい。

<参考資料>

① 開催風景



会場風景①



会場風景②



討議風景①



討議風景②



発表風景①



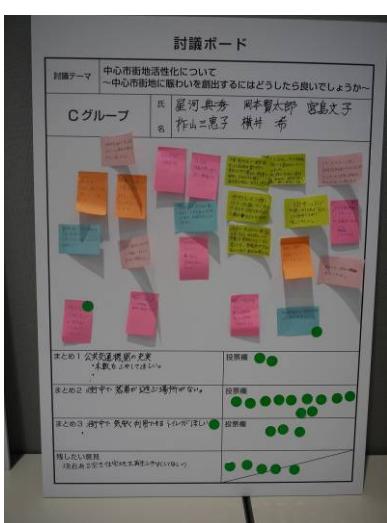
発表風景②



投票風景①



投票風景②



討議ボード①



討議ボード②

平成23年5月16日

各 位

富山市長 森 雅志

(社) 富山青年会議所
理事長 寺島 雅峰

「まちづくり市民討議会2011」の開催について（ご案内）

日頃から、市行政について格別のご理解をいただき、厚くお礼申し上げます。
このたび、富山市と（社）富山青年会議所の共催により、「まちづくり市民討議会2011」を開催いたします。

この市民討議会は、まちづくりの課題や地域の身近なテーマについて討議していただき、市民皆様の声を行政に届ける新しいスタイルの会議です。

皆様には、同封しましたパンフレットをご覧頂き、是非ご参加くださいますようご案内いたします。

なお、本案内は富山市の住民基本台帳から無作為抽出した18歳以上の市民1,000名の皆様に送付させていただいております。

富山市のコンパクトなまちづくり と中心市街地活性化



富山城を背景に大手モールを走るセントラム

富山市都市整備部中心市街地活性化推進課

1

1. 富山市の市街地の特性

1-1 低密度な市街地

(1) 背景

・富山平野の平坦な地形

(可住地面積…全国第2位（大都市を除く県庁所在都市中）)

・高い道路整備率

(道路整備率(2005年)…全国第1位（富山県）)

・強い戸建志向

(持ち家比率(2008年)…全国第2位（富山県）77.6%)

(住宅1戸あたりの延べ床面積(2005年)

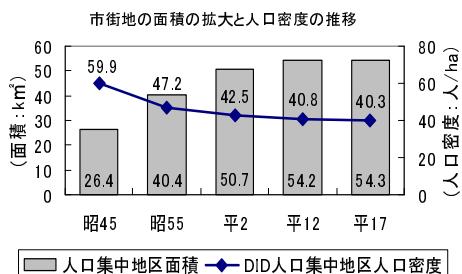
…全国第1位（富山県）

・郊外での安い地価

(相対的に割高な集合住宅)

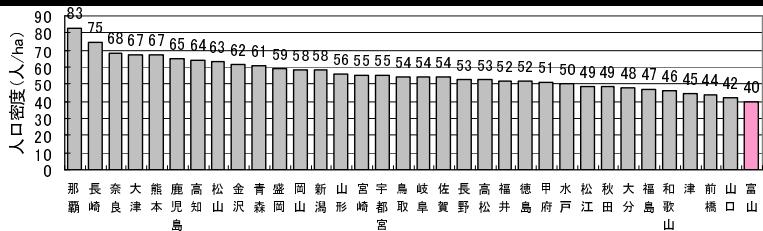
(2) 低密度な市街地の実態

過去35年間でDID面積は2倍に増加、DID
人口密度は2/3に減少



↓
市街地の外延化により、県庁所在都市では
全国で最も低密度(40.3人/ha)な市街地

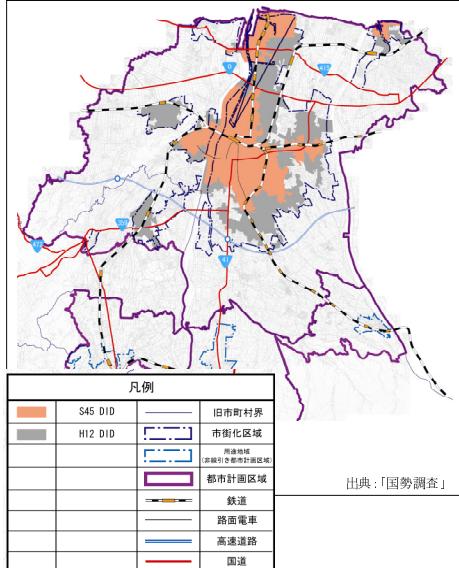
■ 県庁所在都市における人口集中地区の人口密度



出典: 2005年
国勢調査 2

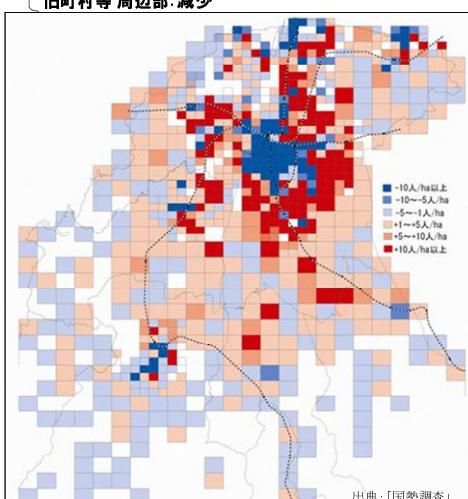
(3) 人口増減の特性 ※2000年と1970年の比較

●人口集中地区(DID)の変遷



●富山市における人口の増減(過去30年間)

都心部:減少
郊外部:増加
旧町村等周辺部:減少



1

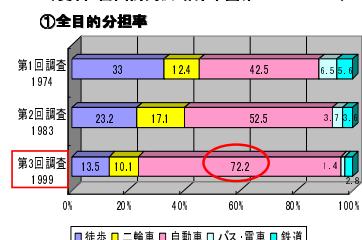
1-2 自動車交通への高い依存度

(1)世帯当たりの自家用車保有台数

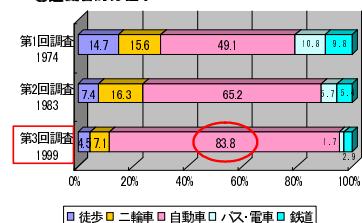
1.73(台)/1世帯当たり 全国第2位(富山県)
(資料出所 北陸信越運輸局富山支局:2009年3月末現在)

(2)交通手段分担率

中核都市圏では高い自動車分担率
(資料:富山高岡広域都市圏第3回PT調査)



②通勤目的分担率

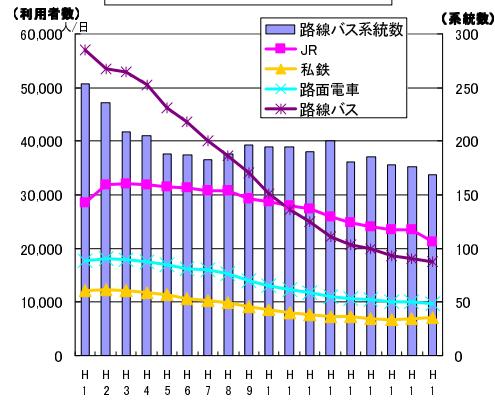


(3)衰退する公共交通

路線バスの系統数は過去17年で約3割消滅
(253系統⇒169系統)

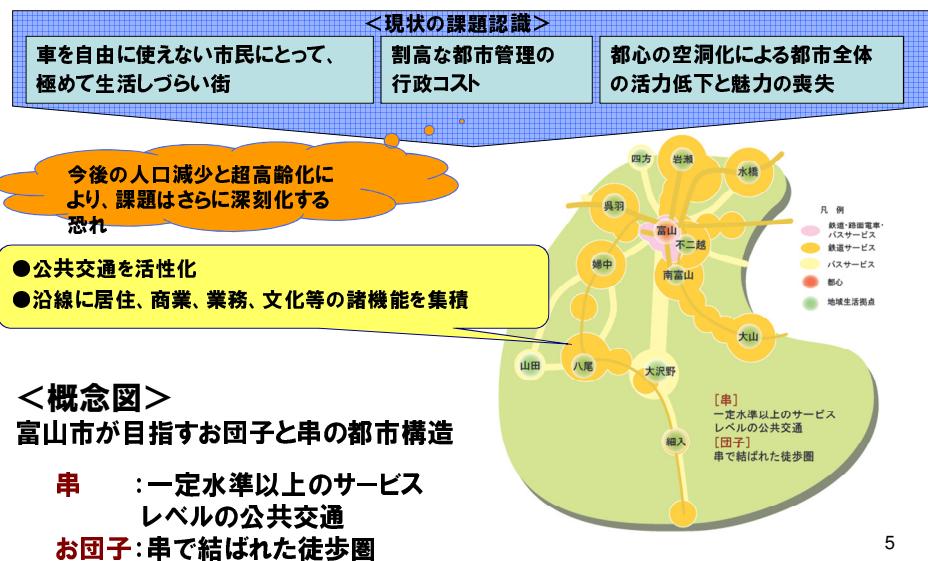
路線バスなど身近な公共交通ほど利用者が減少

<利用者の減少率> 1989-2006(17年間)	
JR	25%減(H18JR富山港線廃止)
私鉄	42%減
路面電車	45%減
路線バス	69%減

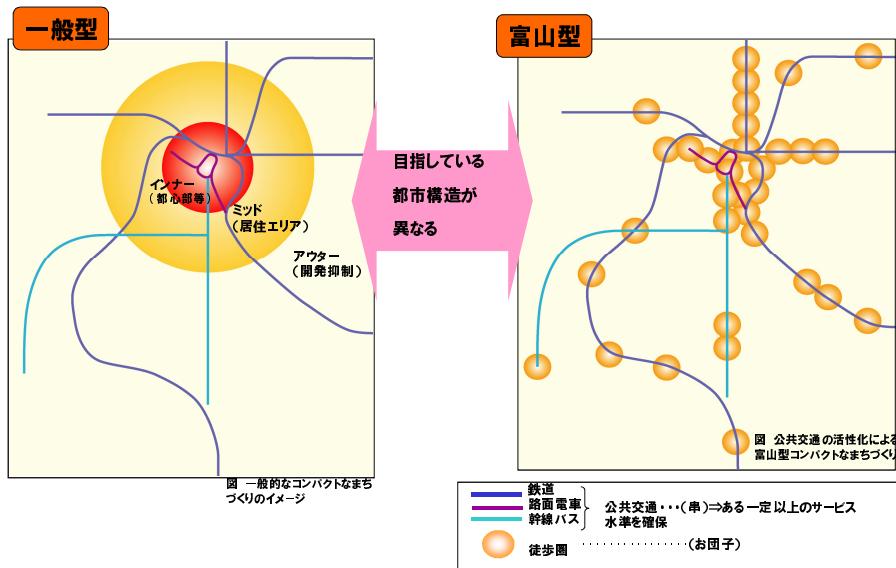


2. 富山市のコンパクトなまちづくり

2-1 富山市のまちづくりの基本方針

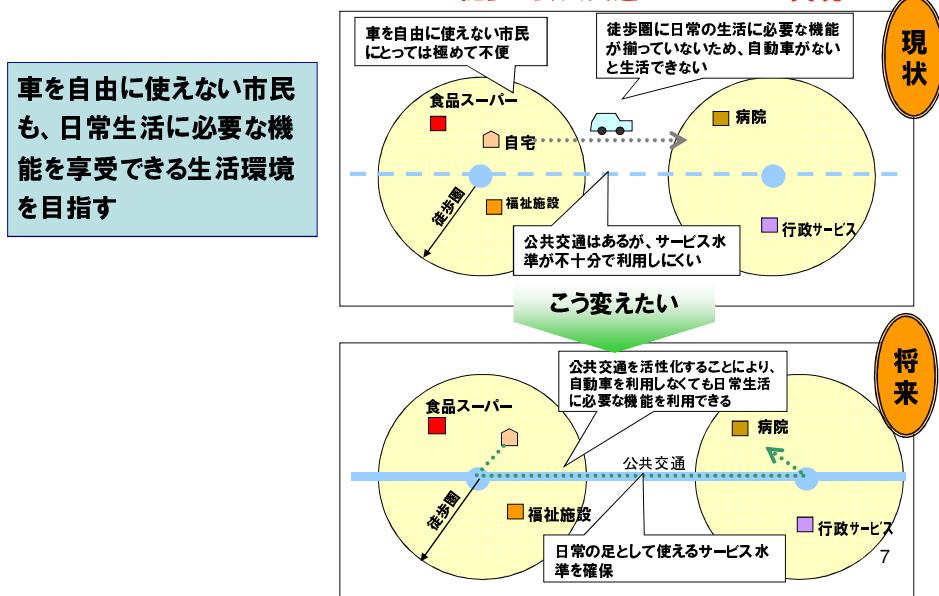


2-2 お団子と串の都市構造



2-3 富山型コンパクトなまちづくりのコンセプト

— 徒歩と公共交通による生活の実現 —



3. 「串」づくり

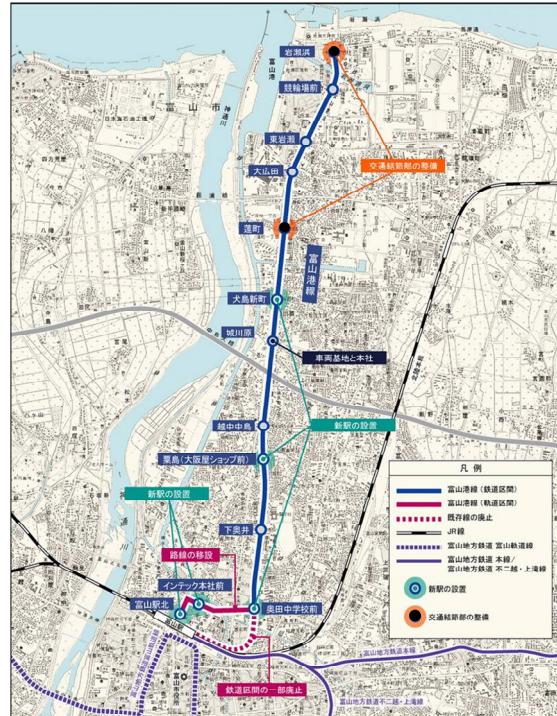
3-1

JR富山港線のLRT化

路面電車化事業の概要

①路線計画

- ・道路敷内へ、1.1km新規に軌道を敷設するとともに、6.5kmの旧JR富山港線軌道を活用し、全線7.6kmに600m間隔で駅を配置
 - ②低床車両の導入
 - ③運行サービスの向上
 - ・運行本数を約3.5倍に増加
 - ・始発・終電の時刻を改善
 - ④樹脂固定軌道と芝生軌道の導入
 - ⑤市民、地元企業からのサポート
 - ・各電停のベンチの記念寄附
 - ・新駅について命名権を販売
 - ・電停個性化スペースへのスポンサー広告の掲示



富山ライトレールの整備効果

平成18年4月29日の開業から平成23年3月31までの間で約807万人が乗車

開業前と比較して、利用者数は平日で約2.1倍、休日で約3.6倍に増加

●平成23年3月31日現在
平日 4,820人/日
休日 3,811人/日

●開業前(平成17年10月)の調査
平日 2,266人/日
休日 1,045人/日



●平成19年10月 ブルーリボン賞受賞

その他
バリアフリー優秀大賞
グッドデザイン賞
経済産業大臣賞

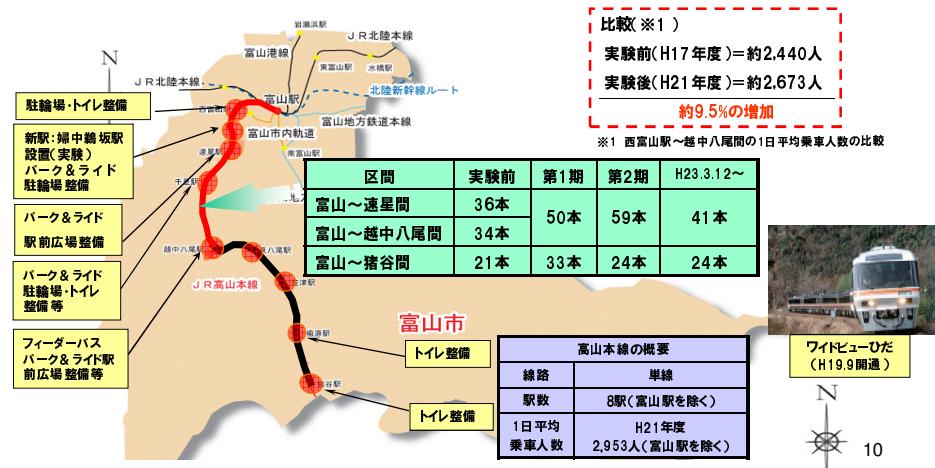
- 日中の高齢者の利用が増加(ライフスタイルの変化)
- 利用者のうち、約12%が自動車からの転換(環境負荷の低減)
- 沿線での住宅の新規着工件数の増加
- 市民アンケートでは、沿線だけでなく、市域全域で8割以上の市民が富山ライトレールを評価すると回答(H18.6月末実施)

9

3-2 JR高山本線活性化社会実験

(春のダイヤ改正(平成23年3月12日)で社会実験終了 → JR高山本線活性化事業として継続)

- 富山ライトレールに続く、鉄軌道活性化の第2弾の取り組み
- 市が費用を負担し、第2期では一日約25本の増便
- H17と比較し、利用者が増加すると富山市の費用負担が小さくなる(H21は)
- 協定をJR西日本と結び、富山市が経営感覚を持って取り組む
- 平成23年度より活性化事業として実験で効果のみられた朝夕を中心に1日7本の増便



3-3 市内電車環状線化

(1)市内電車環状線化事業の概要 運行形態

利用者にとって分かりやすく利用しやすい環状運行とし、富山駅から集客施設への速達性を考慮し、反時計回りとする。

運行間隔

日中10~15分間隔を基本とする。

車両

バリアフリーの観点から低床車両を3両導入する。

延長

約0.9km

事業方式

公設民営の考え方を導入し、

①整備費は「富山市」が負担

②運行は「富山地方鉄道」が実施

開業日

平成21年12月23日

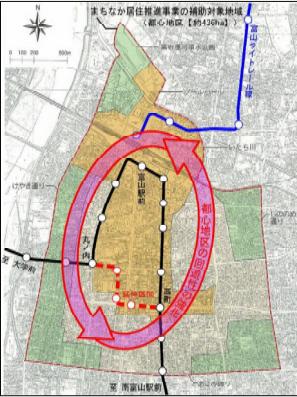


(2)意義

①富山駅周辺地区と平和通り周辺地区のアクセス強化



②都心地区全体の回遊性と魅力の向上



③南北路面電車連結後のネットワーク形成



4. 「団子」づくり

中心市街地の活性化にあたっては、本市が市内全域で進めるコンパクトなまちづくりの一環としての位置づけで以下の方針に基づき進めていく。

○コンパクトなまちづくりにおける拠点づくりを、最も都市機能が集積した徒步圏域である中心市街地においてまず行う

中心市街地は、商業、娯楽等、多種多様な都市機能が集積するとともに、飲食料品、医療等の生活利便施設が集積した徒步圏です。加えて、地方都市としては恵まれた鉄軌道網や開業予定の北陸新幹線がすべて富山駅で結節する公共交通の要となる地域です。

○公共投資を呼び水に、民間の投資意欲を促す

市民や民間事業者の方が、郊外の住宅地や幹線道路沿いではなく、中心市街地内の青空駐車場や空き地・空きビルなどに投資していただけるよう集中的に公共投資を行いPRすることで、民間サイドの投資意欲を促します。

○中心市街地の活性化により、富山市全体の活力向上を目指す

中心市街地は、富山県中部地域の商圏、通勤圏の中心であり、その投資波及効果は多くの市民や観光客等、市内全域に及ぶことになります。また、中心市街地で活発な経済活動がなされることで大きな税収が生まれ、市域全体にわたる道路や公園等、都市の維持管理を安定継続的に行うことが可能となり、周辺地域の維持発展も含めた富山市全体の活力向上につながります。

13

5. 中心市街地活性化基本計画(平成19年2月8日第1号認定)

活性化の目標

※104市 107の基本計画が認定(H23年3月現在)

1 公共交通の利便性の向上

～公共交通の活性化により、車に頼らずに暮らせる
中心市街地の形成

【目標】路面電車市内線の乗車人員 = **13,000人**(H23)
5年間で約1.3倍に増やします

2 脳わい拠点の創出

～魅力と活力を創出する富山市の「顔」にふさわしい中心市街地の形成

【目標】歩行者通行量 = **32,000人**(H23)
5年間で約1.3倍に増やします

3 まちなか居住の推進

～魅力ある都心ライフが楽しめる中心市街地の形成

【目標】居住人口 = **26,500人**(H23)
5年間で約1.1倍に増やします

活性化27事業



1 公共交通の利便性の向上

市內電車環狀線化事業

中心市街地を運行している路面電車の軌道を延伸、環状線化し、富山駅周辺地区と中心商業地区の回遊性向上を図る。

平成21年12月23日 開業

富山駅周辺地区土地区画整理事業

富山駅周辺地区の一体的なまちづくりを推進するため、駅前広場や都市計画道路などの基盤整備とあわせ、駅周辺における土地利用の高度化を図る。

事業期間：平成17年度～平成29年度

富山駅付近連続立体交差事業

北陸新幹線建設事業にあわせ、富山駅周辺の抜本的な改善を図るため、JR北陸本線やJR高山本線、富山地方鉄道を高架化する事業。

事業期間：平成16年度～平成28年度

中心市街地活性化コミュニティバス運行事業

中心市街地にコミュニティバスを運行させ、居住者の利便性を向上させるとともに、中心市街地への来街者の増加を図る。

**中央ルート、清水町ルートの2ルート運行
1周40分**



1 公共交通の利便性の向上

おでかけバス事業

満65歳以上の高齢者は、市域全域どこからでも、中心市街地へ出かける場合、

バス料金が100円になる割引制度事業(平成16年度から実施)

平成23年度から、おでかけ定期券をICカード化

■ おでかけ定期券

対象:満65歳以上の方

代金:1,000円



■ おでかけ定期券の利用

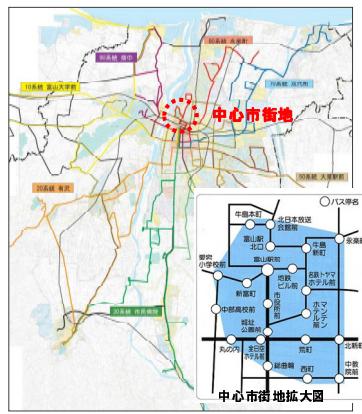
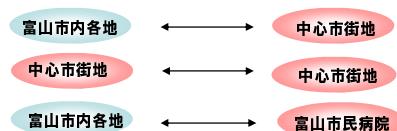
①利用時間帯

午前9時～午後5時(バスを降りる時間)

②利用方法

おでかけ定期券(ICカード)で運賃を精算
(小銭や整理券が不要)

③利用区間



平成20年度～ おでかけ電車事業(H19試行)
平成23年度～ おでかけ路面電車事業を実施

17

2 賑わい拠点の整備

富山城址公園整備事業

富山らしさを象徴する城址公園として再整備する事業

事業期間:平成10年度～平成29年度

総曲輪フェリオ

総曲輪通り南地区市街地再開発事業

キーテナントとして大和富山店が出店し、専門店も多く出店する再開発事業

愛称 総曲輪フェリオ

平成19年9月21日 オープン



グランドプラザ整備事業

中心商業地区の貴重な公共空間として、一年を通して使用可能な全天候型ガラス屋根の広場を整備する事業

平成19年9月17日 オープン

- 施設面積 約1,400m² (65m×21m) 高さ 約19m
- 二つの再開発事業で幅21mの広場空間を創出し、ガラス屋根と2本の空中通路で連結
- ガラス (2m×2m) の枚数は約600枚
- 床下収納庫兼用の昇降式ステージと床面には電源、通信、給排水設備などを装備
- イベントの開催を妨げない可動式植栽 (モバイルグリーン)



2 賑わい拠点の整備

「賑わい交流館」整備運営事業

総曲輪ウィズビルの4・5階を活用し、映画の上映を行うシネマホールとライブなど多目的に利用できるライブホールを整備し、市民の文化・教養・娯楽の拠点として運営する事業
平成19年2月24日 オープン



「賑わい横丁」整備運営事業

中心市街地での飲食の魅力を高め、来街者の増加、回遊性の向上を図るため、「越中食彩にぎわい横丁」を整備・運営する事業

平成19年3月10日 オープン

・店舗数 6店舗

中心商店街魅力創出事業

中心商店街が魅力ある商業空間を形成するために、統一したコンセプトに基づき行う店舗外装等の整備に対し助成し、街としての新しい魅力づくりを支援する事業

補助対象事業者

総曲輪通り商盛会、中央通商栄会、西町商店街振興組合、上本町商店街振興組合、太田口通り商店街振興組合、千石町通り商店街振興組合、総栄通り商栄会、大手モール振興会、荒町商店会

対象事業

①外装工事及びその附帯工事費(ショーウィンドーを含む)

②アート(ガラス作品、ポスター等)展示を行うショーウィンドー工事費

19

2 賑わい拠点の整備

街なかサロン「樹の子」運営事業

中心市街地の空き店舗を活用し、高齢者をはじめとする来街者の増加を図るため、喫茶や休憩スペースなどのコミュニティ施設を設置・運営する事業

平成15年度から実施



街なか感謝デー開催事業

駐車場を無料開放するとともに、各種イベントを開催し、中心商業地区の魅力を市民に再発見してもらい、中心市街地の来街者の増加を図る事業

事業主体 街なか感謝デー実行委員会

開催回数 平成23年度 5回実施予定(5・6・7・9・10月)

参加駐車場 グランドパーキング他9の駐車場



総曲輪開発ビル再生支援事業

総曲輪オフィシャルガイドブック作成事業

大規模小売店舗立地法の特例措置

ICカード活用による商業等活性化事業

アーバン・アテンダント事業

3 まちなか居住の推進

まちなか居住推進事業

目標 今後10年間で約3,000戸の住宅を都心地区で供給

(H16: 55.7人/ha → H26: 65人/ha)

支援対象 まちなか住宅・居住環境指針（高さ、空地、景観等）に適合する住宅

建設事業者への助成

- ① 共同住宅の建設費への助成
【100万円/戸】
- ② 優良賃貸住宅の建設費への助成
【50万円/戸】
- ③ 業務・商業ビルから共同住宅への改修費助成
【100万円/戸】
- ④ 共同住宅に設置する店舗、医療、福祉施設等の整備費用への助成 【2万円/m²】
- ⑤ ディスポーラー排水処理システムの整備費用への助成 【5万円/戸】

購入または賃貸する市民への助成

- ① 戸建て住宅または共同住宅の購入費等の借入金に対する助成 【50万円/戸】
- ② 都心地区への転居による家賃助成
【1万円/月(3年間)】

低未利用地活用推進調査事業

介護予防施設整備事業

富山市高齢者の持家活用による住

み替え支援事業

総曲輪四丁目・旅籠町地区優良建築物等整備事業

西町南地区市街地再開発事業

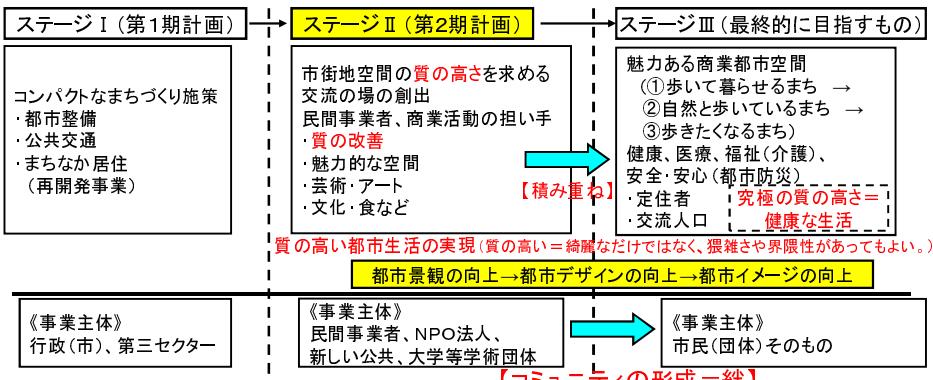
西町東南地区市街地再開発事業

堤町通り一丁目地区優良建築物等整備事業

中央通り地区市街地再開発事業

21

中心市街地活性化を目指すプロセス



【今後の取組におけるポイント】

- ① 本物('authentic')をどう蓄積するか。
→深まりのある積み重ねを持続することにより、都市としての質の高さにつながる。(歴史・伝説になっていく)
- ② ①の具体的な実践方法(プロセス・組織) ※行政としては、できるだけ表に立たないような形で。
→マネージメント(どのように質の高い都市をクリエイトするか) ⇒ 戰略的企画(コンセプトワークを通じた事業展開)
- ③ 楽しみながら実践できるように方向性を誘導する。

歴史的意義・
現在の取組状況

★富山市が進むべき方向:これまで、「環境モデル都市」「コンパクトシティ」を目標に進めてきた。
⇒今後、日本の都市像の見本(最先端)となるべき姿をどのように切り開いていくか?(富山市としての意義)
先進例:京都・横浜・神戸等が持つ都市イメージ ⇒ 富山版の都市イメージを構築(必然性)

アプローチ方向:これまで進めてきたインフラを基盤に先導的モデルとなる環境配慮型のまちづくり

富山市の防災施策について

富山市建設部防災対策課

1

説明する内容

- ・災害対策基本法での災害の定義
- ・災害・地震に強いまちづくり
- ・地震防災マップの作成
- ・浸水対策事業
- ・洪水ハザードマップ作成
- ・津波警報・注意報の広報
- ・自主防災組織育成事業
- ・災害備蓄物資整備
- ・防災行政無線事業
- ・避難場所標識
- ・防災訓練・講演会
- ・災害時要援護者支援制度
- ・災害時等協力事業所登録制度

2

＜災害対策基本法での災害の定義＞

- ・「**暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火**その他の異常な自然現象又は**大規模な火事**もしくは**爆発**その他その及ぼす被害においてこれらに類する政令で定める原因により生ずる被害をいう。」
(政令で定める原因 : **放射性物質の大量の放出**、**多数の者の遭難を伴う船舶の沈没**その他の**大規模な事故**)

3

災害・地震に強いまちづくり

- ・防災空間の整備
公園・緑地、道路、河川・海岸、港湾等の整備
- ・建築物の耐震不燃化
火災耐力の向上、建築物の耐震化
- ・公共土木施設等の耐震化強化
道路・橋梁・河川・港湾・農業施設の耐震性強化
土砂災害の防止
- ・地盤の液状化対策の推進

4

地震防災マップの作成

・ゆれやすさマップ

3つの大きな活断層ごとに、地形や地盤の状況を考慮し、想定されるゆれの最大の大きさ(震度)分布を示したもの。

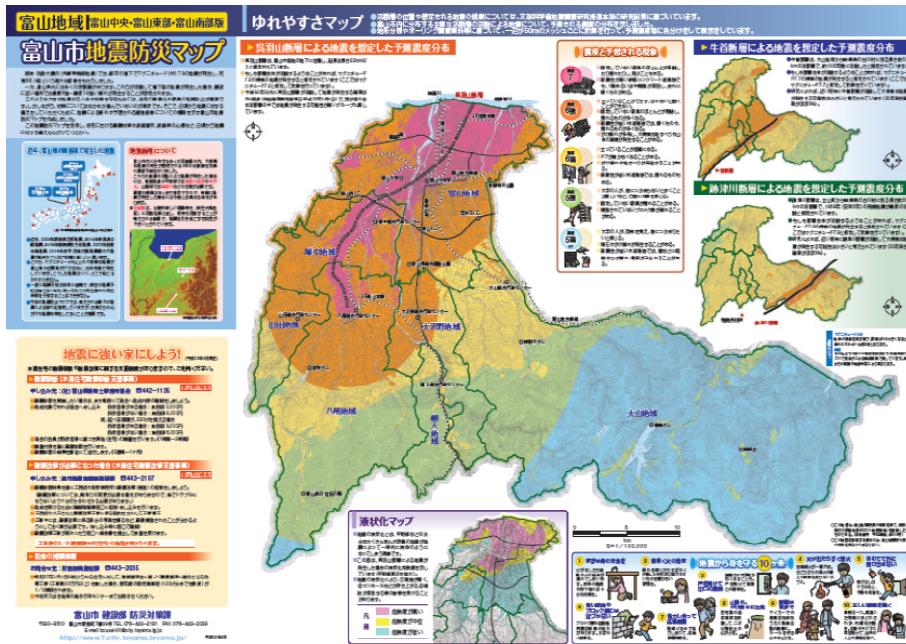
・建物危険度マップ

ゆれやすさマップの震度分布をもとに、建物の構造や築造年などの状況を考慮し、被害を受ける建物の割合(建物全壊率)を示したもの。

・液状化マップ

呉羽山断層による地震が発生した場合に、地形や地層により液状化が起こりやすい範囲と程度を示したもの。

5

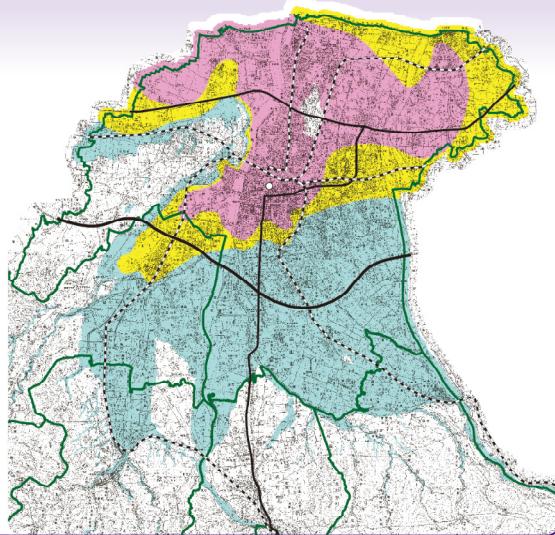


液状化マップ

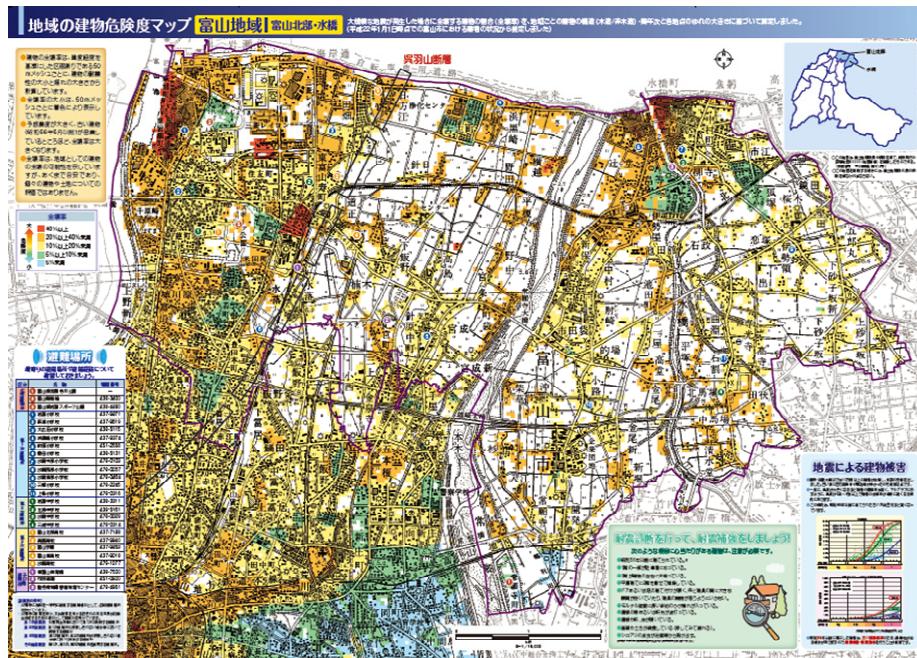
- 地盤の液状化とは、平野部などの水分をたくさん含んだ砂質の地盤が地震によって一時的に液体のようになってしまう現象です。
- この図は、吳羽山断層による地震が発生した場合の液状化危険度を示しています(平野部周辺を拡大)。
- 地盤の液状化により、①建物が傾く、②マンホールなどが浮き上がる、③堤防が変形する等の被害を受けることがあります。

凡
例

危険度が高い
危険度が中位
危険度が低い



7



木造住宅の耐震診断・耐震改修に関する支援制度

▽耐震診断……富山県の補助

<木造住宅耐震診断支援事業>

- ・耐震診断費用の補助が受けられます。
- ・問合せ先:(社)富山県建築士事務所協会

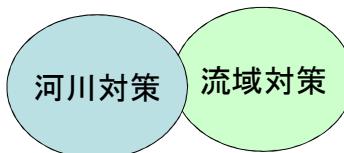
▽耐震改修が必要となった場合…富山市の補助

<木造住宅耐震改修支援事業>

- ・工事費の2／3(限度額は60万円)の補助が受けられます。
- ・問合せ先:富山市都市整備部建築指導課

9

浸水対策事業



川そのものの安全性を高める
●河川・水路改修
●排水機場

川に流れ込む水の量を抑える
●流域貯留浸透施設
●雨水貯留・流出抑制施設

総合的な治水対策を進める

10

排水ポンプ車の整備

【排水ポンプ車】

豪雨時に、神通川や常願寺川などの大河川の水位が上昇し、中小河川などに逆流して中小河川が氾濫を起こし、住宅などの床上・床下浸水被害が発生することがあります。

そのような場合に、大河川に通じる水門を閉め、中小河川の水をポンプで大河川へ排水することにより、その被害を最小限に抑えることができます。

排水ポンプ車は、迅速かつ機動的な排水対応が出来るよう、排水機能を搭載したトラック自動車です。

【配備場所】

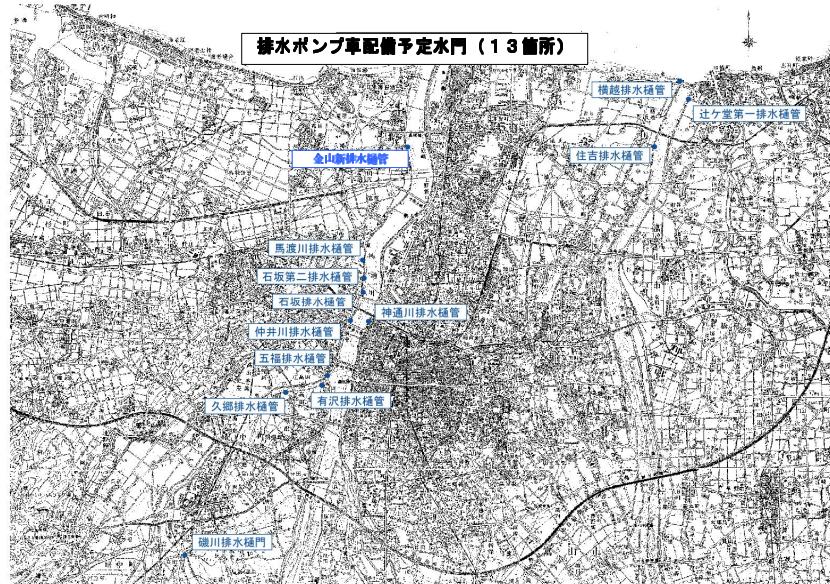
- ・富山市上下水道局(牛島) 20m³/分級 1台
- ・道路維持課分室(南栗山) 10m³/分級 2台
- ・婦中総合行政センター(速星) 20m³/分級 1台

11

排水ポンプ車

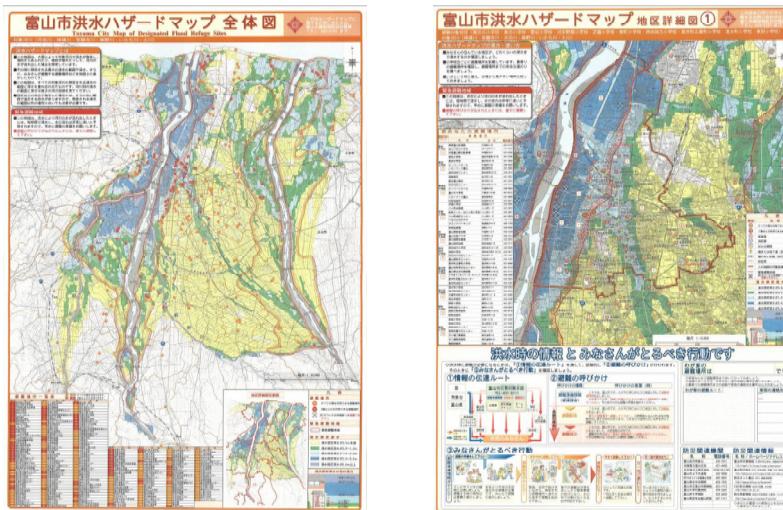


12



13

洪水ハザードマップの作成



14

津波警報・注意報の広報

防災行政無線で情報を伝達
～津波警報が発令されました～



大津波警報 高いところで3m以上
津波警報 高いところで1～2m程度
津波注意報 高いところで0.5m程度
※テレビ・ラジオの情報に注意

15

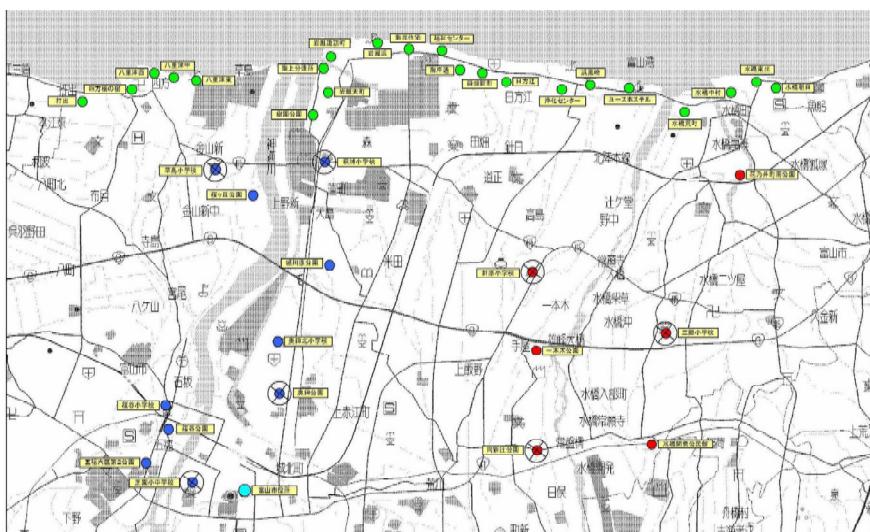
津波警報・注意報が出たら

- ・津波警報が発表されたら、地震を感じなくてもただちに海岸や河口付近の川岸から離れ、急いで高台や丈夫な建物の最上階などの安全な場所に避難しましょう。
- ・テレビ、ラジオなどで正しい情報を見聞きしましょう。
- ・津波注意報でも、海水浴や磯釣りは危険なのでやめましょう。
- ・津波は繰り返し襲ってくるので警報、注意報が解除されるまで海岸や河口付近の海岸に近づかないようにしましょう。



16

海岸部における同報無線

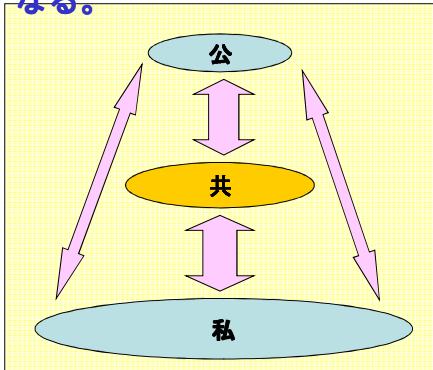


自主防災組織育成事業

- ・出前講座の開催
自主防災組織未結成町内への説明
 - ・防災資機材補助
自主防災組織への資機材支援
 - ・防災訓練実施補助金
自主防災組織への訓練支援
 - ・防災士講座事業
自主防災組織の育成支援

自主防災組織の役割

“私”と“公”的な間を埋める防災コミュニティづくりの原点であり、地域における災害に強いまちづくりの中心となる。



<平常時>

- ・防災意識の向上
- ・備えの充実

<災害時>

- ・地域での応急活動

19

自主防災組織の現状

○組織数	市内 238組織 (H23.3末現在)
○組織率	33.8% 参考 富山県 65.0% (H23.3末現在) 全 国 74.4% (H22.4.1現在)

傾向：組織率は高くないが、徐々に上昇。(県内市町村中、最下位)

背景：近年、全国各地で大規模な自然災害が発生⇒防災意識の向上



※組織することが目的ではない。

※自発的に自分のまちや自分たちの隣人を守り合うための組織

(住民が住民のためにつくり、活動する組織)。

※平常時から備えをし、災害時には災害を乗り切る構えが大切。

20

災害用備蓄物資整備

被災者支援としての災害用備蓄物資としては、災害発生直後の一時的な対応として、乾パンなどの保存食料や毛布などを現物備蓄しています。

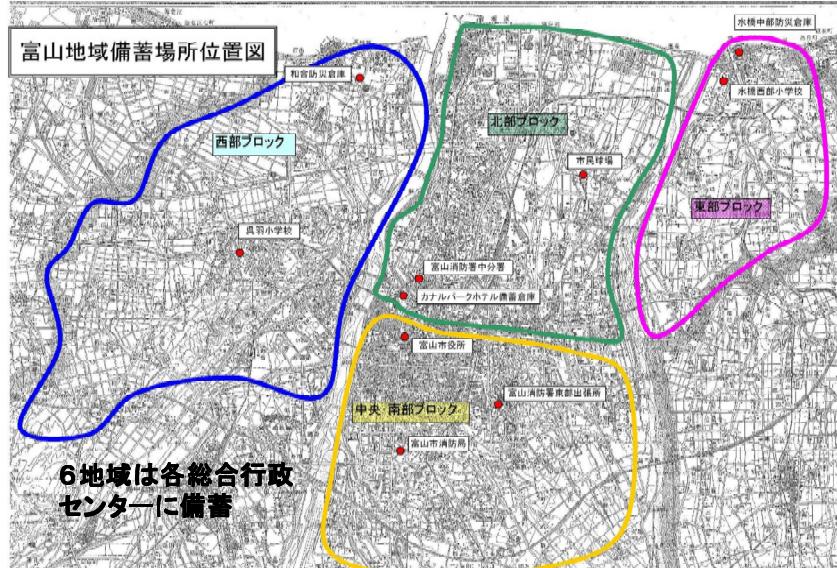
・**食 料:** 目標11,300人×3食=33,900食

被災想定者数の一定割合(市持ち分4割・跡津川被害想定28,293人×4割=11,317人)である
11,300人の1日分を備蓄。

・**飲料水:** 目標418,000人×1%×3L／日・人=12,540L

飲用水兼用耐震性貯水槽(5基・460m³)があること
から、3L／日・人を人口の1%相当の1日分を備蓄。

21



防災行政無線事業

・防災行政無線整備

県や県内自治体と相互の交信を行う。

・防災行政無線(同報系)整備

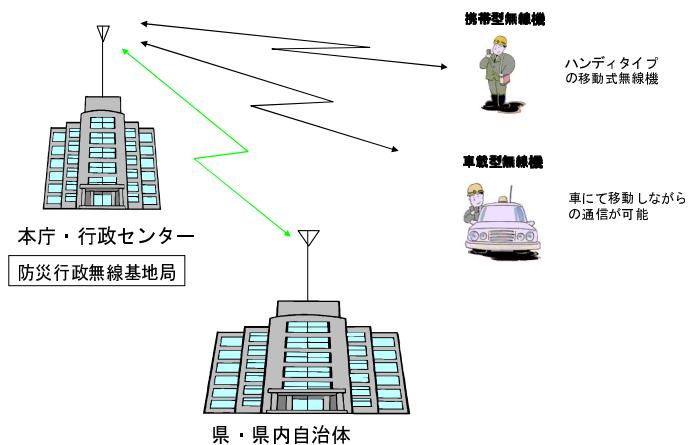
屋外に設置した拡声器で、災害・避難情報などを伝達する。(津波、洪水、熊、国民保護対策情報)

・地域防災無線整備

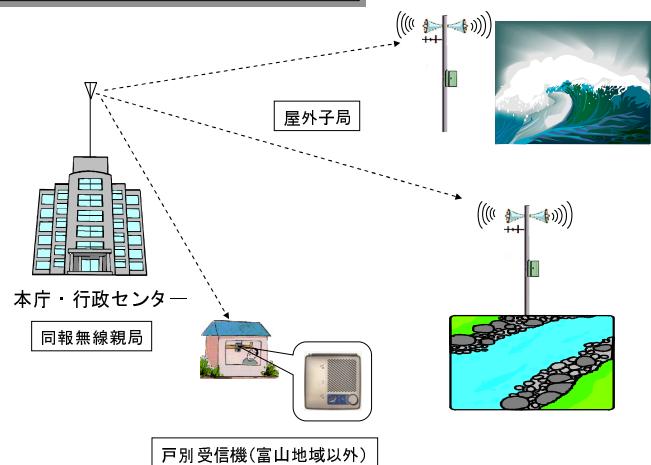
防災関係機関や生活関連機関に配備し、地域の関係機関相互の交信を行う。

(地区センター、小学校、中学校、警察、マスコミ、市車両、市所有携帯等)

防災行政無線のイメージ

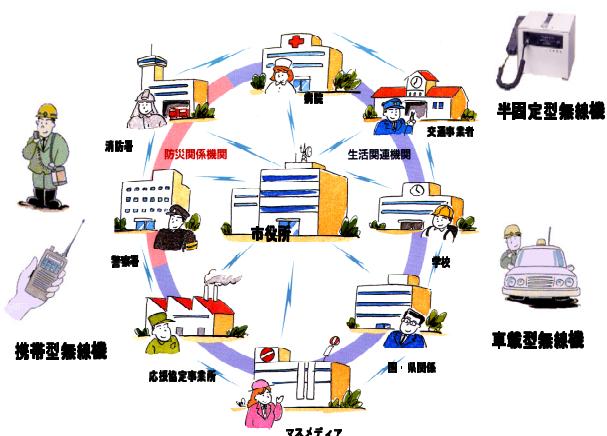


同報無線のイメージ



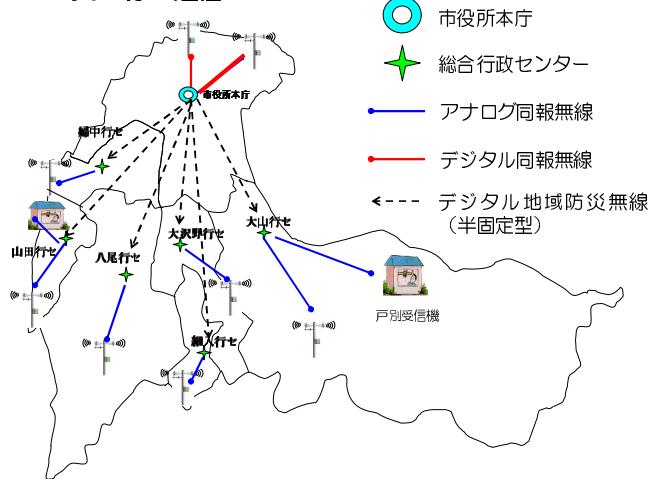
26

地域防災無線のイメージ



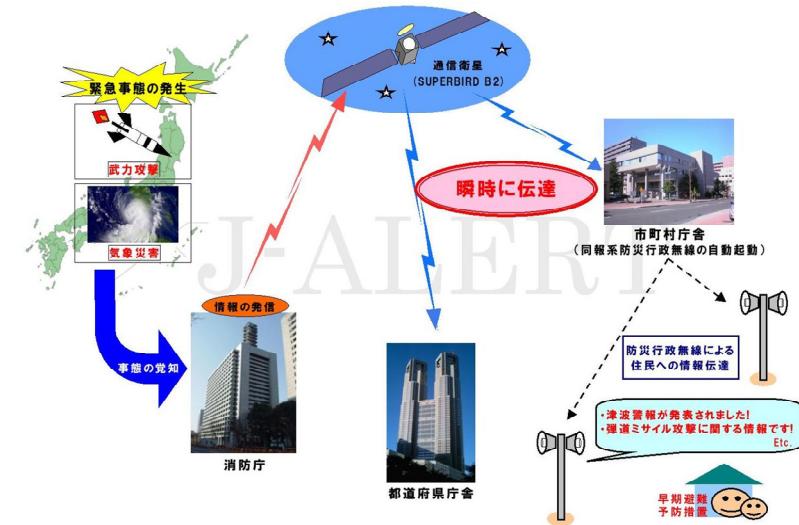
27

現在の防災無線の通信概要



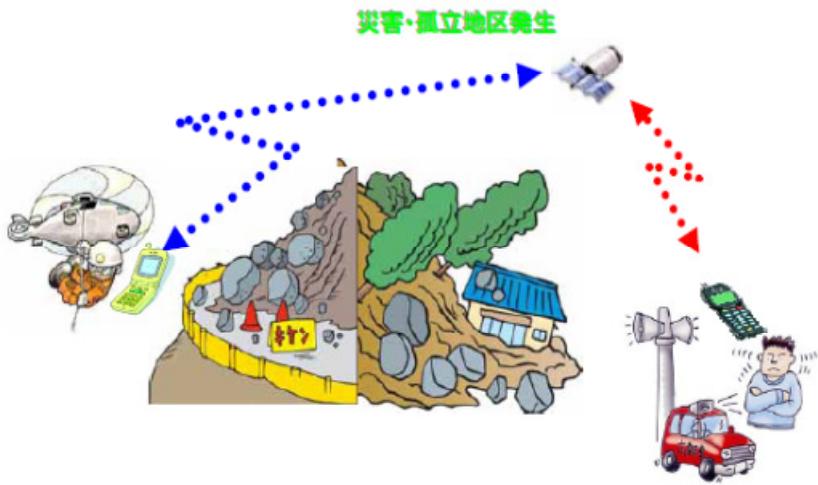
28

全国瞬時警報システム(J-ALERT)



29

衛星携帯電話 災害時の通信・孤立集落との通信



避難場所標識

避難場所を示す標識を整備しています。

<整備の状況>

- ・ 指定している避難場所の数は市全体で221箇所あります。
- ・ 平成19年度から統一した新たな避難場所マークを採用し、文字は大きく表示するとともに、外国人にも理解できる4カ国語表記としました。(英語、ポルトガル語、ロシア語)
- ・ 平成22年度末までに、標識が設置されていなかった箇所や老朽化の激しかったものなど、90箇所の整備を行いました。
- ・ 引き続き、整備を進めています。



防災訓練・講演会

・水防訓練

風水害に備える

・総合防災訓練

地震などに備える

・職員参集訓練

予め定めた情報伝達網による迅速な参集

・防災講演会

市民や職員の防災意識の高揚を図る

32

水防訓練



33

総合防災訓練



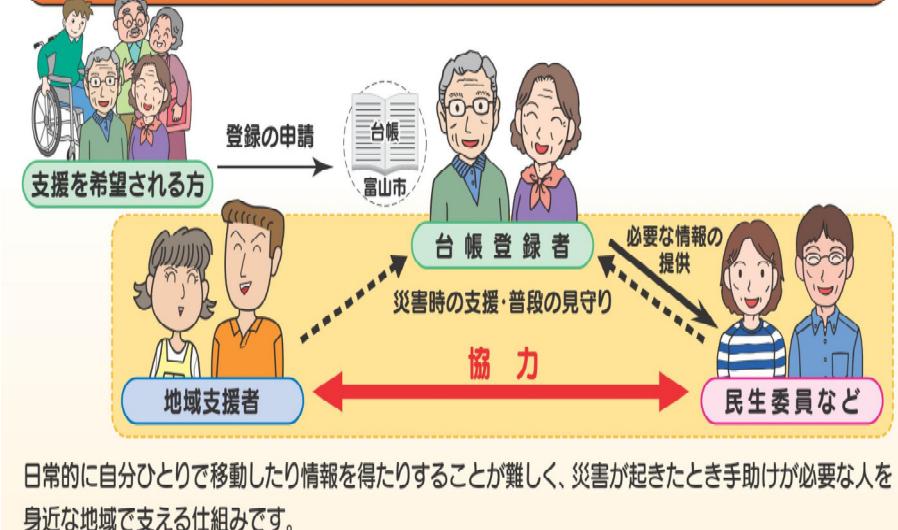
34

防災講演会



35

災害時要援護者支援制度



36

災害時要援護者支援の必要性

過去の大規模な自然災害

→ 犠牲者の約半数が「**災害弱者**」

～発災直後の対応が命を守るカギ～

- ①災害発生直後に必要(有効)なのは、「地域の力」。
- ②日ごろから顔の見える付き合いが災害時に有効。
- ③公的支援には、時間を含めて限界がある。



地域において災害時要援護者を支援する仕組み

37

災害時要援護者の対象者

災害時要援護者の対象者は、次のとおりです。

身体等に障害があり、自力での避難が困難で、災害時等において地域で支援を希望する次の方であつて、住所、氏名など支援に必要な個人情報を提供することに同意した在宅の方です。

(施設・病院に入所・入院されている方は対象になりません。)

(1) 在宅の65才以上の方で、次のいずれかに該当される方

- ①介護保険における要介護認定を受けており、
要介護3～5の方
- ②身体障害者手帳の交付を受けており、
障害の程度が1級及び2級の方
- ③療育手帳の交付を受けており、障害の程度がA判定の方
- ④ひとり暮らし高齢者、高齢者のみの世帯の方

(2) 前各号に掲げる方のほか、地域の支援が必要な方

38

災害時要援護者登録者数

地 域	登録者数
富 山	1, 419
大沢野	174
大 山	21
八 尾	38
婦 中	141
山 田	23
細 入	3
計	1, 819

平成23年3月31日現在

課題

- ・潜在的な要援護者の存在
- ・地域支援者の選任

39

災害時等協力事業所登録制度

- ・ 災害が発生したとき、事業所も地域の一員として、できる範囲内で防災活動に協力していくことを目的に、平成20年1月に創設。
- ・ 登録事業所が地域の自治振興会や町内会、自主防災組織などから直接支援要請を受け、地域への支援・復旧活動を行う。
- ・ 平成23年5月末現在、36事業所が登録。

40

最後に

- ① 地域のつながりの強化
(自主防災組織の設立など)
- ② 要援護者支援制度の周知・活用
(民生委員・町内会・自主防災組織など)
- ③ 防災やまちづくり意識の啓発
(洪水ハザードマップ、防災マップなど)
- ④ 災害時の連携が必要な活動の訓練
(初期消火、炊き出し、避難所の運営など)

41